

令和5年度 翠地区集落实態調査報告書

5月下旬から6月中旬に実施した本調査の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

本調査は翠小学校区にお住いの方(16歳以上の方を対象)に、集落の現状や問題点、今後の集落のあり方についてお伺いすることにより、これからの翠地区をみんなと一緒に考える材料とすることを目的に、伊予市役所地域創生課が実施したものです。今回、多くの地域住民の皆様にご協力いただきましたことを心より感謝申し上げます。

今後は、本調査結果を基に地域住民の皆様と意見交換しながら、翠小学校区がよりよい地域となる方策等を探っていきたいと考えています。

なお、今回、この調査結果について、北海道科学大学専任講師の郡谷寿英氏に分析のご協力をいただきましたので、内に記載します。

おって、この調査結果についてご不明な点がございましたら、下記の担当者へお気軽にご連絡ください。

【担当】

地域創生課

関木・武智

TEL 089-909-6382

双海地域事務所内

集落支援員 森田清延

TEL 089-986-1111

アンケート調査結果

○対象者 523人（翠地区(仲之宮を含む)の高校生以上全員)

○回答者 195人

○回答率 37.28%

○性別

男	90人
女	101人
答えたくない	3人
不明	1人

○職業別の回答者数

農林業	会社員	団体職員	個人事業主	パート・アルバイト	学生	無職	不明
60人	38人	9人	12人	16人	4人	35人	21人

○年代別の回答者数

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	不明
2人	8人	13人	12人	23人	58人	37人	33人	8人	1人

○各広報区での回答者数

A	B	C	D	E	F
54人	20人	20人	21人	20人	4人
G	H	I	J	不明	
4人	19人	18人	11人	4人	

【北海道科学大学専任講師のコメント】

以下に、主要な質問項目について、その結果を記します。今回のアンケートから、皆さんの地域への愛着がうかがえる結果となりました。一方で、現在の課題や今後の不安なども見えてきました。特に地域の存続については、多くの住民の方々が共通の思いでいることが分かりました。これは翠地区に限らず、日本全国の共通の課題でもあり、地域課題というよりも社会課題としての側面が大きい問題です。この課題は一長一短で解決できるものではなく、また一人ではできないようなものではありません。ここで求められるのは、住民一人ひとりの思いや行動です。それぞれ地域の愛着という共通点を持って、共同で活動することが求められます。これは言い換えると「地域力」と呼べるものです。

今回の調査からは、その地域力の一端を感じられるものでした。この地域力を発揮するためには、お互いの思いを共有することが必須です。本調査を是非皆さんの共有材料としてご覧いただければ幸いです。

1 集落の生活環境について

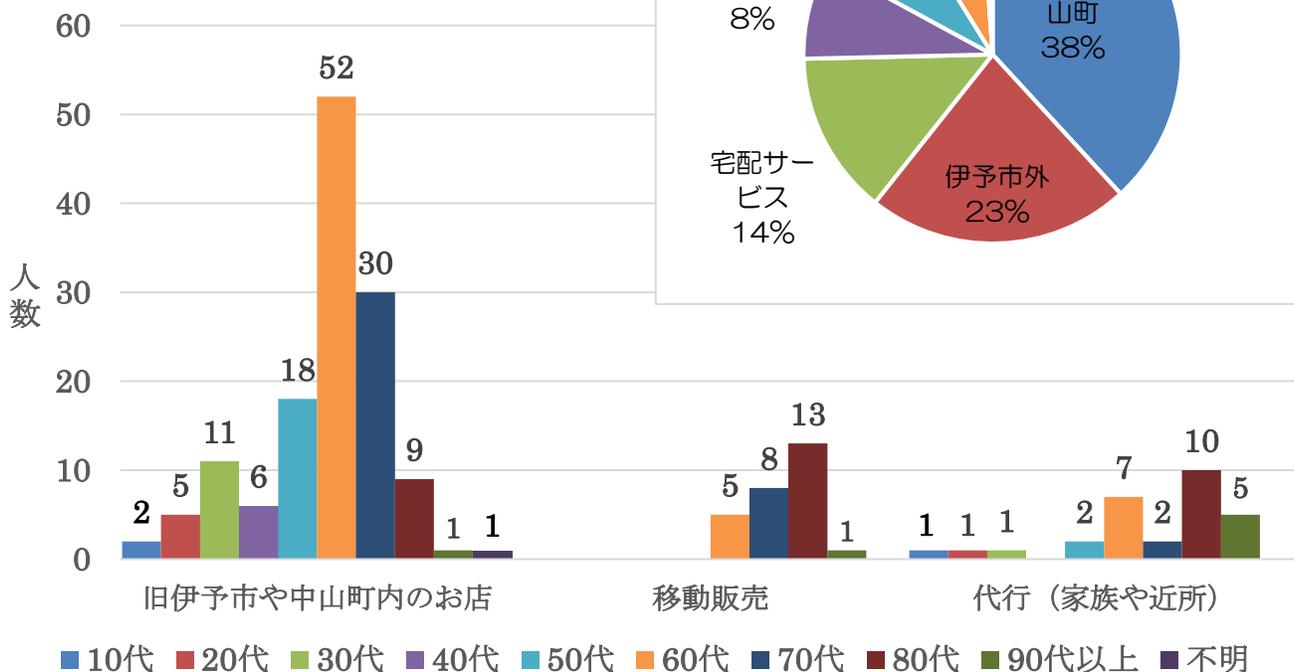
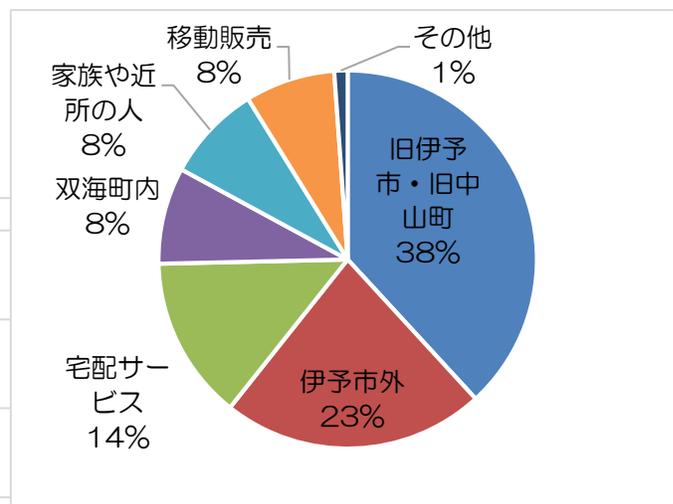
【問1】あなたは、主にどのような方法で日常生活品(食料品など)を買っていますか。もっとも多く利用していると思われる番号を2つまで選んで記入してください。

- 1. 双海町内のお店
- 2. 旧伊予市や中山町内のお店
- 3. 市外のお店
- 4. 宅配サービス(ネットスーパー、通販など)
- 5. 移動販売(移動販売など)
- 6. 家族や近所の人を買ってきてもらう
- 7. その他()

全体

番号	1	2	3	4	5	6	7
人数	29	134	79	49	27	29	4

買い物の場所については、移動手段と集落の近くにある店舗の数が関係していると思われる。



【北海道科学大学専任講師のコメント】

翠地区の住民の買い物行動としては、順に「旧伊予市や中山町内（38.2%）」、「伊予市外（22.5%）」と6割以上が遠方に買い物に出かけている様子が伺えました。

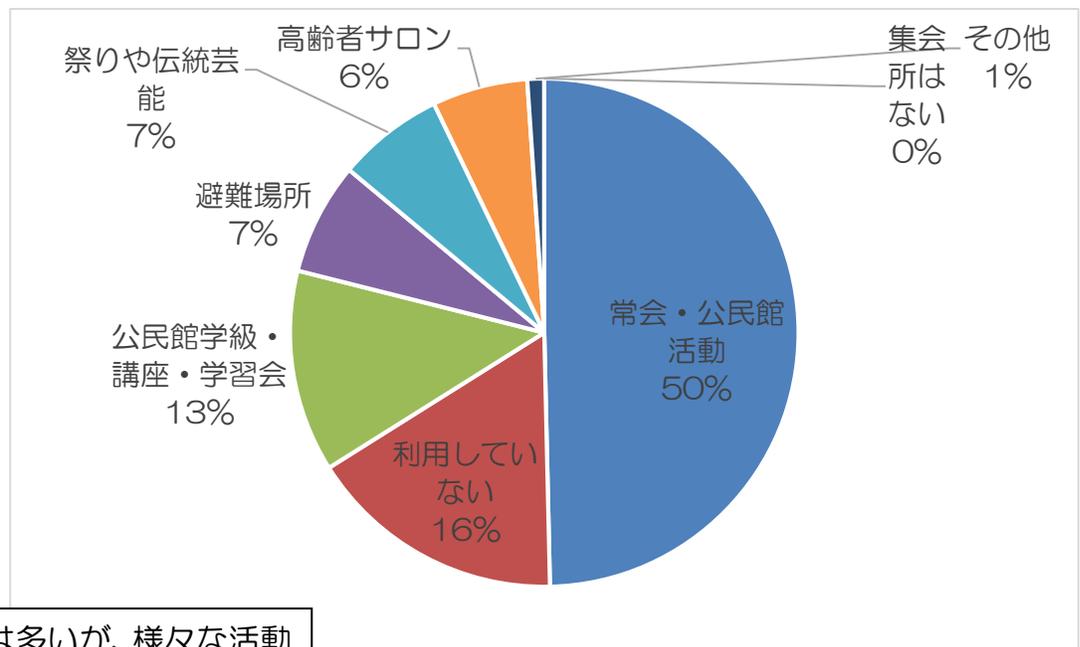
「双海町内」および「家族や近所」が少なかったのは、実店舗数、つまり買い物できる場所がないことが要因として考えられます。宅配サービスの利用が多いことも同様のことを示していると考えられます。

【問2】あなたは、集落にある集会所(公民館など)をどのように利用していますか。当てはまる番号をすべて記入してください。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1.常会や公民館活動 | 2.公民館学級や講座、学習会 |
| 3.高齢者サロンなどの集まり | 4.祭りや伝統芸能の練習 |
| 5.緊急時の避難場所 | |
| 6.その他() | |
| 7.利用していない | 8.集会所(公民館など)は無い |

全体

番号	1	2	3	4	5	6	7	8
人数	139	36	17	19	20	3	46	0



会合での利用は多いが、様々な活動での利用が少ない。これまで以上に集会所に地域の住民が集まる機会の創出が必要ではないかと思う。

【北海道科学大学専任講師のコメント】

公民館を積極的に利用している様子が見受けられました。
 この結果から見えることは、公民館と公民館の活動が地域に認知されていることです。
 世代を超えた交流や活動が期待できることは、今後のまちづくりなどでも大きな力になることが推測できます。一方で16%の方は利用していない結果があり、その分析は非常に大切な要素でもあるように思います。

2 集落における「ささえあい」について

【問3】 あなたの集落には、高齢者だけで住んでいる世帯(注)はありますか。当てはまる番号を1つ選んで記入してください。

(注) 高齢者だけで住んでいる世帯とは、一人暮らしの高齢者だけでなく、高齢者同士の夫婦など2人以上の高齢者が住んでいる家族も含まれます。

1.ある 2.ない 3.わからない

全体			
番号	1	2	3
人数	169	4	18

【問3-1】 上記質問で「ある」と答えた場合、次の世帯の数について、あなたが知っている範囲でそれぞれ記入してください。

- ① 高齢者の一人暮らしの世帯数
- ② 一戸建て住宅に住んでいる高齢者世帯の数

全体																				
① 高齢者の一人暮らしの世帯数																				
世帯数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	11	12	14	15	20						
回答数	31	35	42	12	8	2	3	2	3	2	1	1	1	1						
② 一戸建て住宅に住んでいる高齢者世帯の数																				
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	18	19	21	24	25
人数	19	27	32	18	17	1	7	6	5	3	2	4	2	3	1	1	1	1	1	1

《参考資料》 R5.6月末日 伊予市住民基本台帳

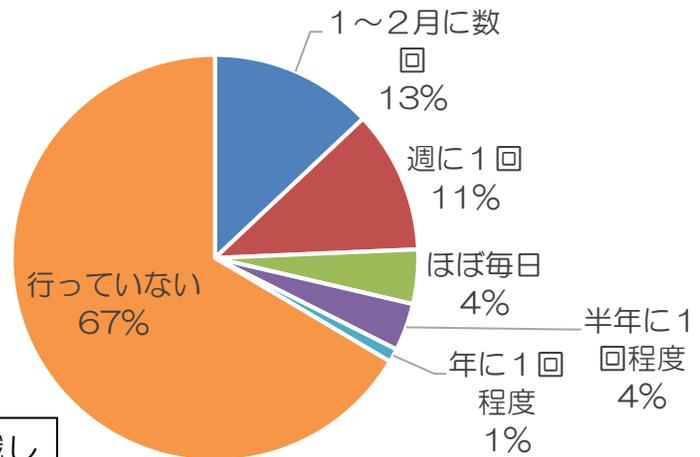
地区	男	女	計	世帯数	高齢化率
久保	57	78	135	64	39.52
三島	28	34	62	28	48.33
岡	25	31	56	24	47.17
日尾野	25	29	54	27	50.00
粒野	30	37	67	33	56.72
犬寄	10	11	21	13	61.90
東峰	13	12	25	12	88.46
高見	23	21	44	17	56.82
奥大栄	1	0	1	1	100.00
大栄	24	29	53	28	63.46
仲之宮	14	18	32	14	62.50

【問4】あなたは、集落にお住いの一人暮らしの高齢者の安否確認(声掛けや訪問など)を行っていますか。当てはまる番号を1つ選んで記入してください。

- 1.ほぼ毎日 2.週に1回程度 3.1～2か月に数回
4.半年に1回程度 5.年に1回程度 6.行っていない

全体

番号	1	2	3	4	5	6
人数	8	21	24	7	2	123



一人暮らしの高齢者がいることは認識しているが、具体的な行動を起こしている方は少ない。今後は、どのような具体的な行動をとれば良いかや、行動の起こし方を話し合う必要があると思う。

【北海道科学大学専任講師のコメント】

67%が「声掛けを行っていない」と回答しています。普段の生活環境の中で普段見かける方と会わないといった些細な気づきを大切にしていきたいと思います。

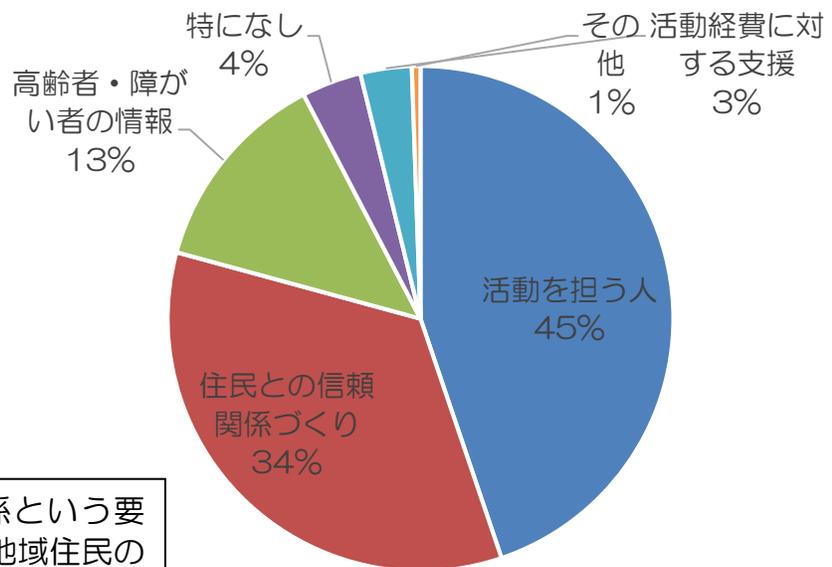
また高齢者世帯も多いことから、同世代同士の情報交換（立ち話なども含めて）は効果的です。公民館などで行われる高齢者向けサロンもよい場所になるかもしれません。

【問5】 集落で協力して、見守りが必要な方(高齢者、障がい者など)の安否確認を行う場合、あなたが必要と思うことは何ですか。もっとも必要と思う番号を1つ選んで記入してください。

- 1.活動を担う人
- 2.高齢者、障がい者などの情報
- 3.住民との信頼関係づくり
- 4.交通費、郵便切手代、電話料などの活動経費に対する支援
- 5.その他()
- 6.特に必要なことはない

全体

番号	1	2	3	4	5	6
人数	82	24	63	6	1	7



活動を担う人や人間関係という要素が8割近くを占める。地域住民の連帯意識の高揚や具体的な活動内容の検討が必要ではないかと思う。

【北海道科学大学専任講師のコメント】

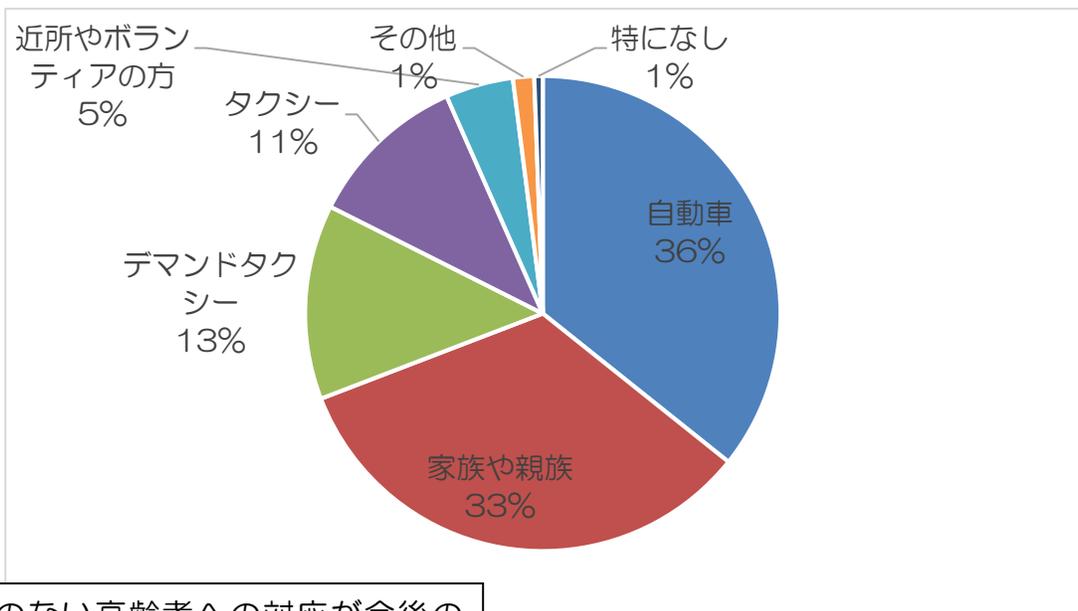
多くの方々が回答されたように「活動を担う人」と「信頼関係づくり」が大切な要素です。人との関わりが重要であるという認識を共有できている翠地区では、近所付き合いをはじめとした交流のきっかけさえつかめると、それぞれが安心できるのではないのでしょうか。

【問6】高齢者が集落の外へ出かける場合、主な移動手段は何ですか。あなたが知っている(または行っている)方法の番号を2つまで選んで記入してください。

- 1.自動車(本人が運転)
- 2.家族や親戚の送迎
- 3.デマンドタクシー
- 4.タクシー
- 5.ご近所の方やボランティアの方の送迎
- 6.その他()
- 7.特に無い

全体

番号	1	2	3	4	5	6	7
人数	124	116	46	38	16	5	2



交通手段のない高齢者への対応が今後の課題であり、共助・公助の在り方は今後、十分に検討すべきではないかと思う。

【北海道科学大学専任講師のコメント】

公共交通機関が少ない地方では、自家用車の移動がどうしても主になります。世間的に、高齢者が運転することへの不安など耳にすることも多いですが、様々な研究から年齢による事故との関連は少ないとも言われています。

地域の交流の中で何かと話題にしたり、自主グループを立ち上げた勉強会などを企画したりすることは高齢者自身だけでなく、家族や近所といった周辺の方の安心にもつながるように思います。

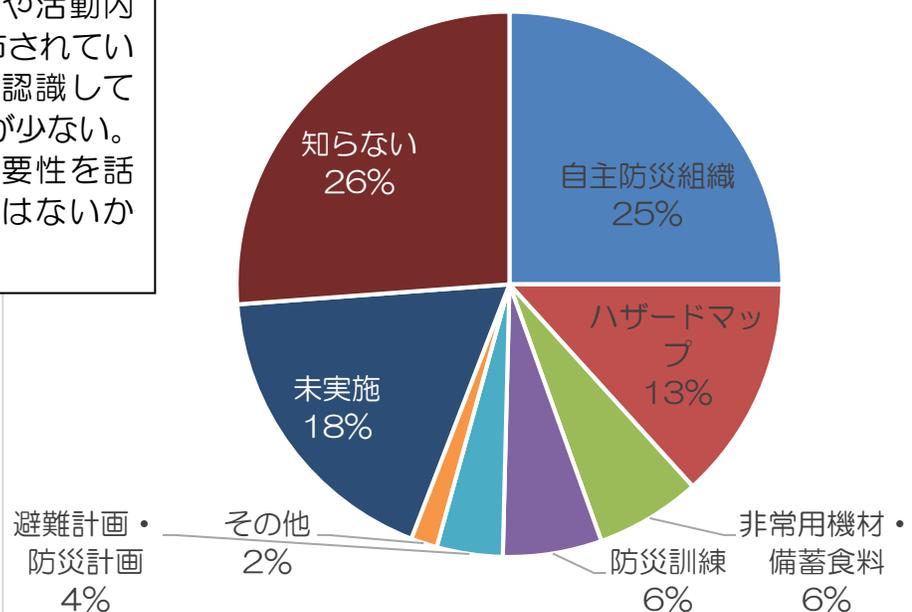
【問7】 集落で行っている消防・防災活動の具体的な内容について、あなたが知っている活動の番号をすべて記入してください。

1. 市役所とは別の自主防災訓練を行っている
2. 集落に非常用機材や備蓄食料を備えている
3. 自主防災組織がある
4. 集落の避難計画や防災計画を作っている
5. 集落のハザードマップ(災害危険区域の地図)を作っている
6. その他()
7. 何も行ってない
8. 知らない

全体

番号	1	2	3	4	5	6	7	8
人数	15	16	64	10	34	4	46	67

自主防災組織の役割や活動内容、作成され全戸配布されているハザードマップを認識している地域住民の割合が少ない。今一度それぞれの必要性を話し合うことが必要ではないかと思う。



【北海道科学大学専任講師のコメント】

それぞれ様々な内容を地域住民が知っていることが伺えます。一方で、「知らない」という回答も26.2%います。

どのような年代の方が回答したのかを分析することで、その有効な対応方法や場所が見えてくるように思います。また、「何も行ってない」と回答された方には、現在の活動を知る機会を自治体職員が中心になってつとめることが大切な一歩でしょう。

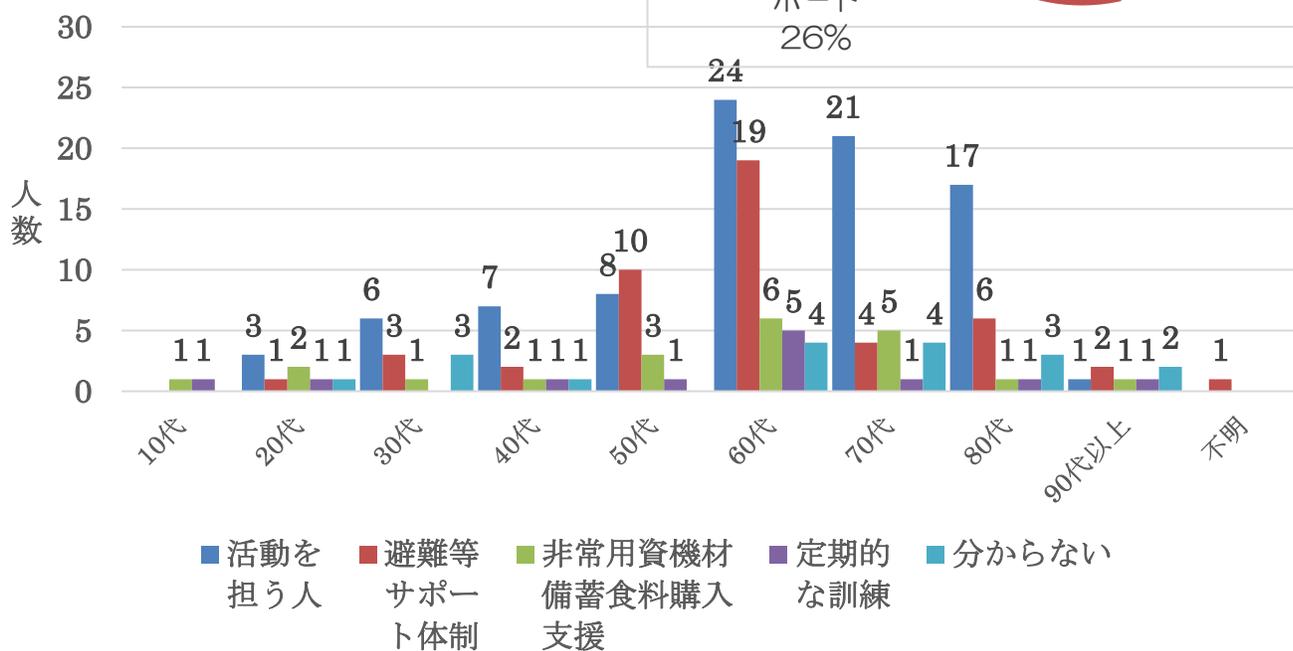
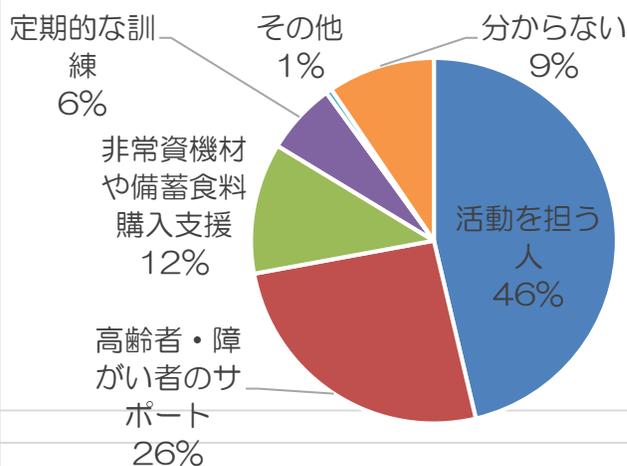
【問8】 今後あなたの集落において、消防・防災活動を行う上で、必要なことは何ですか。あなたが、もっとも必要と思う番号を1つ選んで記入してください。

- 1.活動を担う人
- 2.(高齢者、障がい者など)の避難などをサポートする体制
- 3.非常用資機材や備蓄食料購入に対する支援
- 4.定期的な訓練
- 5.その他()
- 6.分からない

全体

番号	1	2	3	4	5	6
人数	88	49	22	12	1	18

各年代ともに人的要素の必要性を認識している割合は高い。



【北海道科学大学専任講師のコメント】

消防・防災活動を行う上で、必要なこととして「活動を担う人」を約半数（46.3%）の方が回答しています。これは消防団や青年団などの組織を想定していることが予想できますが、ここで大切なことは消防・防災が「他人ごと」ではないということです。

「活動を担う人＝自分」という「自分ごと」としてまず捉え方の認識を改め、自分が災害に遭ったときどういう行動が求められるかということを考えることが大切です。その時はじめて次点の「サポート体制」が効果を発揮するでしょう。

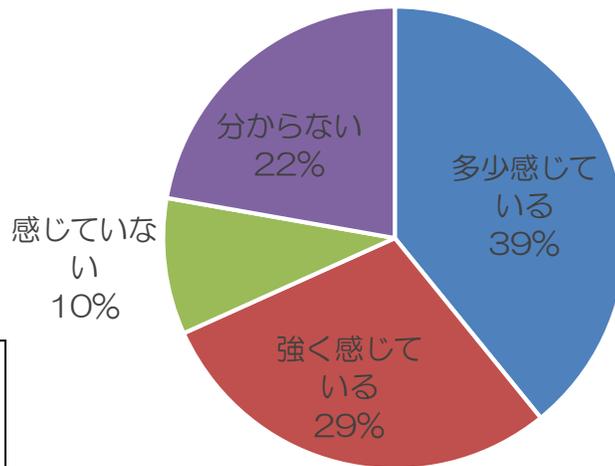
3 集落の魅力や誇りについて

【問9】あなたは、自分の住んでいる集落に対して愛着や誇りを感じていますか。
 当てはまる番号を1つ選んで記入してください。

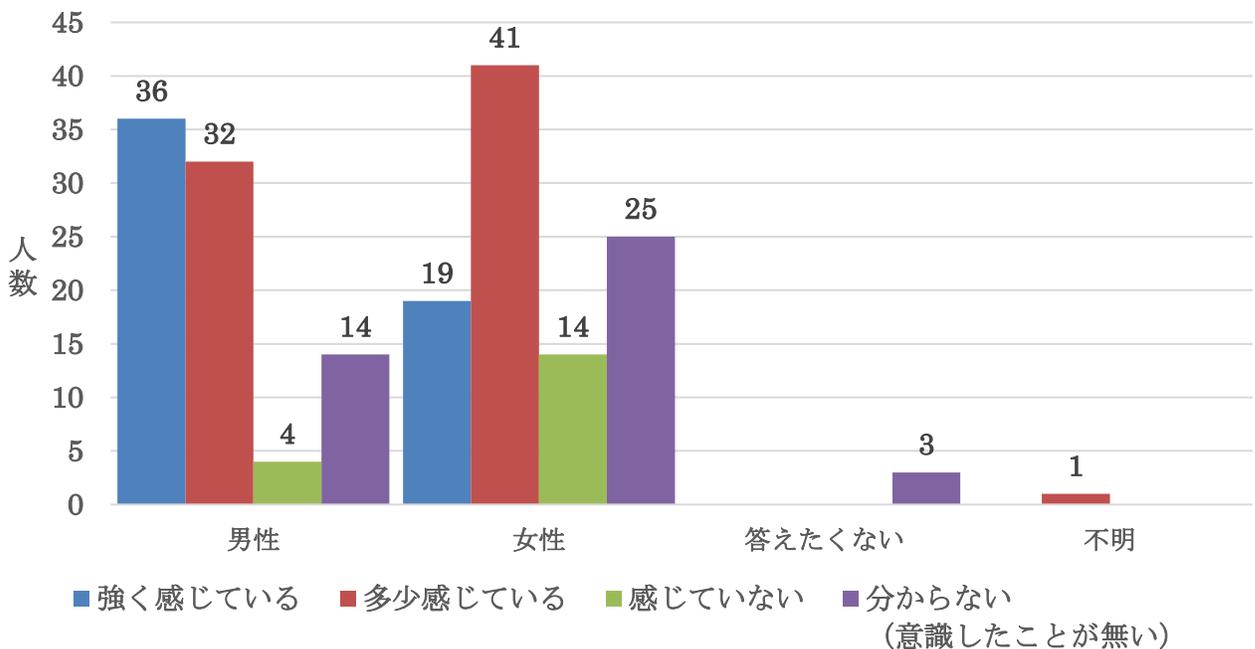
- 1.強く感じている
- 2.多少感じている
- 3.感じていない
- 4.分からない(意識したことが無い)

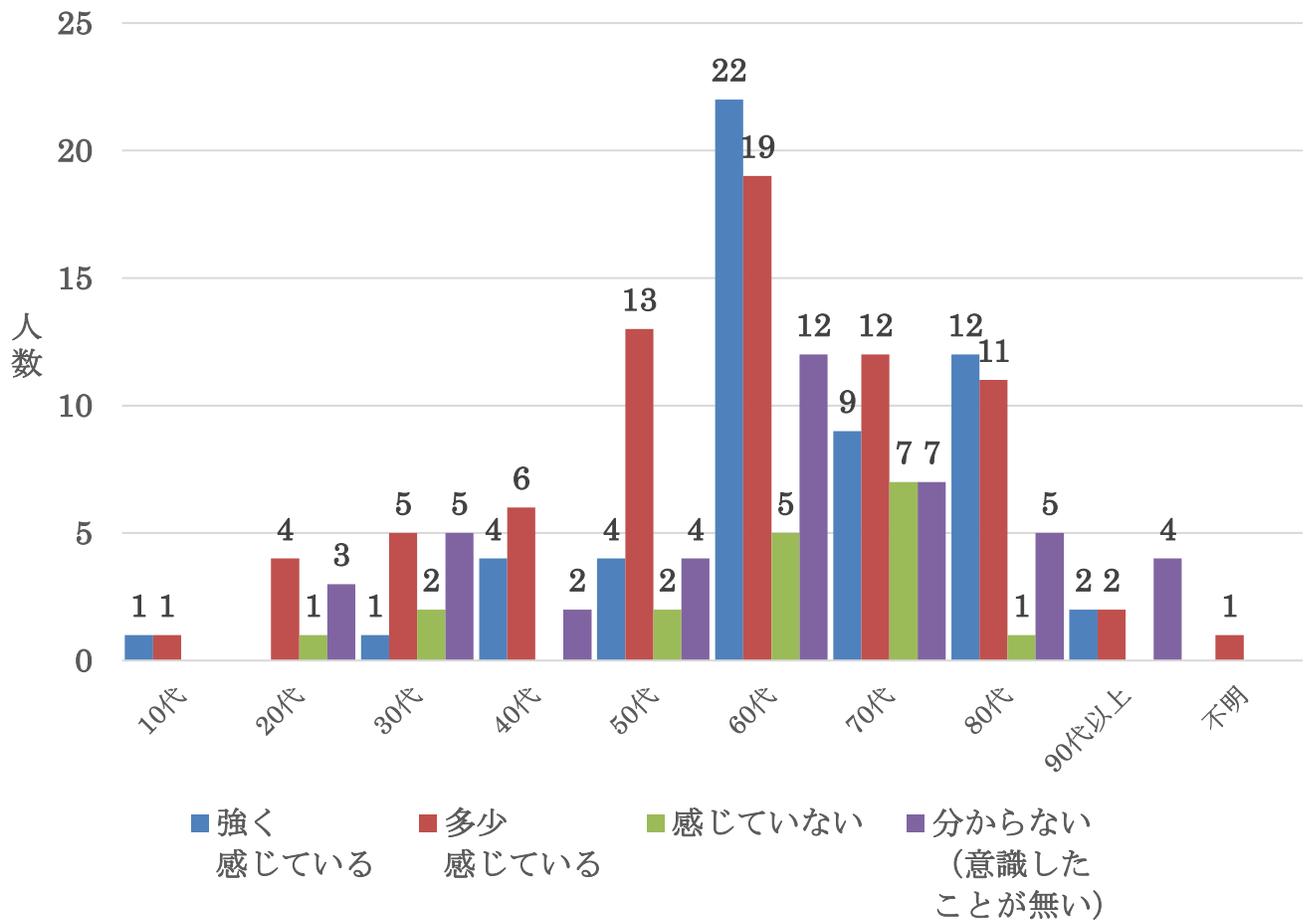
全体

番号	1	2	3	4
人数	55	74	18	42



7割近くの方が住んでいる集落に愛着や誇りをもっている。男性は女性に比べ愛着や誇りをもっている。集落での生活経験の長さが要因ではないだろうか。





活動の中心になっている60代が、愛着や誇りを強く感じている。

【北海道科学大学専任講師のコメント】

今回の調査から7割近くの住民は、御自身が住まう土地への愛着や誇りを感じていることが分かりました。この結果は純粋に誇るべき結果と捉えても良いかと思えます。推測するに土地に縁のある方々が多い構成になっているものと思えます。

「感じていない」や「分からない」という回答も実質3割あることから、愛着や誇りをどのような点で感じているのか、やはりここでも共有する機会が求められるように思えます。また、それぞれの土地に移住を決めた方の考えを聞くことも、今以上に魅力を感じる機会として有効でしょう。

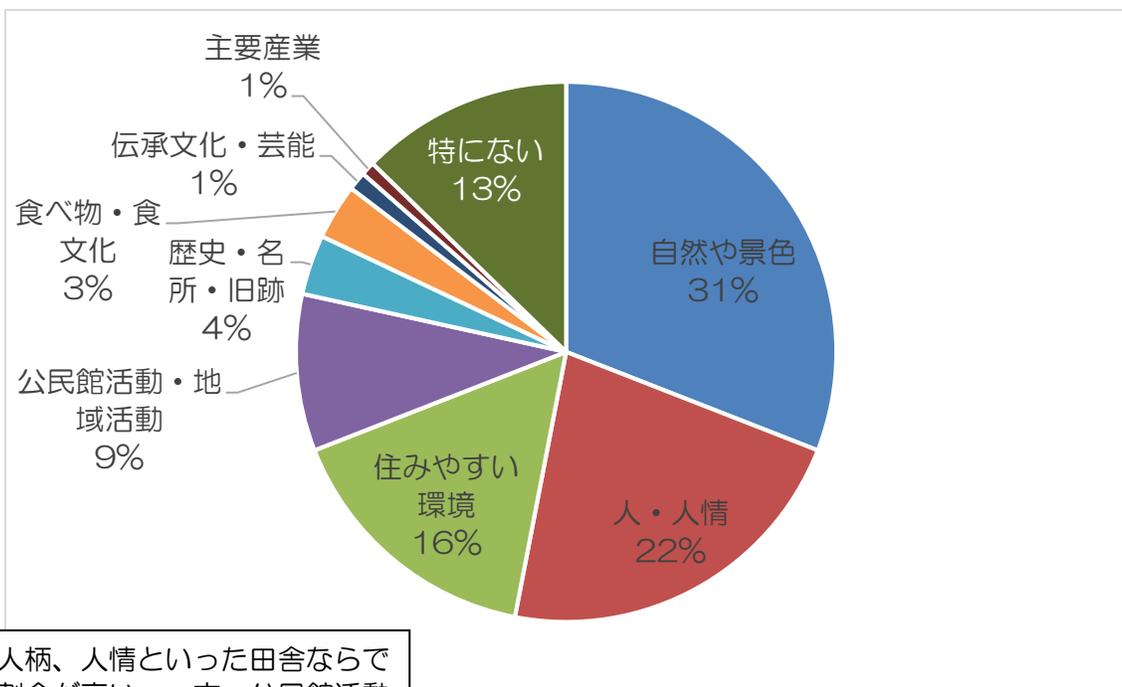
【問 10】 あなたの集落において、誇れる物や自慢できるものは何ですか。

あなたが思っているものすべての番号を記入してください。

- | | | |
|-----------|------------|--------------|
| 1.自然や景色 | 2.住みやすい環境 | 3.人や人情 |
| 4.伝承文化や芸能 | 5.歴史、名所、旧跡 | |
| 6.食べ物や食文化 | 7.主要産業 | 8.公民館活動や地域活動 |
| 9.特に無い | | |

全体

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
人数	112	58	80	4	13	12	3	34	46



自然環境や人柄、人情といった田舎ならではの要素の割合が高い。一方、公民館活動や地域活動といったコミュニティーを高める要素が少ないのが気にかかる。これまで培ってきた活動の良さに目を向けることも必要ではないかと思う。

【問 10-1】 前の質問【問 10】で、○を付けた項目について具体的な内容を回答票の指定の枠内にご記入ください。(自由記述です。)

《項目別での分類》

《自然や景色》

- 交通網が乏しく、主要な商業施設もない住みやすい環境とは言えない所ではありますが、例えば春の上灘川沿いの桜並木、真夏の青空の下でのセミの鳴き声と微かに聞こえる楽しそうに遊ぶ子どもたちの声、秋の夕暮れに染まる棚田と赤とんぼ、冬の空気が澄んで遠くの山々がくっきり見られる風景など、年中その季節に見える情景がとてもエモいです。
- 星が綺麗。小鳥の鳴き声。最近は雉が良く鳴いている。
- 農村の原風景。ホタル。翠小学校。人と人との強い結びつき。理解と協力によって行う活動。
- 夜、星がきれい。
- 県道沿いの水田の美しい風景は、癒されると思う。スポーツや地域活動で、住民同士の交流ができています。
- 5月下旬～6月上旬にホタルが川沿いに多く飛んでいる。周囲の人を気にかけている人が多い。過去には獅子舞をしていた時期もある。「おきよ池」をアピールすると良いのでは。
- 集落には所々に桜があり、緑や紅葉もきれいだ。ホタルが飛んでいるところも楽しいです。
- ホタルが飛んでいる。
- 自然災害も特になく、6月には上灘川でホタルの姿も見られ、夏には昔ながらの田んぼのおあおとした風景が見られ、自然を楽しんでいます。
- 高速道路が近く、景色もよく見える。
- ホタルがきれい。
- 山がたくさんあって落ち着く。海があるので夏はにぎわって良い。
- 海に山、川と豊かな自然が魅力。
- 黄色い丘。
- 自然が豊かで、近所の方も優しい方ばかりで住みやすいと思う。
- 自然の脅威を感じることもあるが、四季を感じ季節の動植物、昆虫(ホタルなど)を身近に感じる。子育てするなかで、「のびのび」と育てられる。近所の声掛けや見守りがありがたい。地域の活動に参加することで、より関係が深まり地域を活性化することができていると感じる。
- 「自然や景色」昔は集落で花見をしたりしていました。春は桜、山は季節感をいっぱい感じることができます。(ホタル、空気も良く健康にいい)
- 「食べ物や食文化」田んぼ=米、畑=野菜 自給自足もできる。
- 緑が多く、ホタルなども飛んで自然がいっぱい。
- 家の裏や近所でホタルを見ることができる。
- 5月中旬から6月初旬までホタルが飛び交い、市内外から多くの人を訪れる。
- 限界集落ではありますが、四季折々の風景は心を和ませてくれます。また、表で作業をしている人々の様子を見受けることが、集落内の人たちの様子を知ることができるので、安否確認とまではいきませんが、気に掛けることができます。
- 秋葉山。
- ホタルが飛び交う川。木造の翠小学校。
- 家の前に川があり、ホタルが飛び交い、家の中にも入ってきたりして、ホッコリします。
- 普通に川、緑、田畑の景色が好きだから。ホタルが舞う。

- 野草ですが、四季を感じる事ができる。果樹が実り、美味しく食べることができる。野菜も作れて収穫も少しあり、子どもたちにも送ることができる。近所の人たちに相談することもできる。
- 周りが緑に囲まれて空気もおいしい。今のところは満足しています。
- 特にこれといったものはありませんが、自然が豊かです。
- 山間部で地理的にもとても住みやすい便利な場所ではないが、四季折々の景色はそれなりに良いところもある。(桜、梅、桃)
- NPO 法人が菜の花、ミモザ、コスモス、蝶々など他市からも見に来てくれて賑やかです。畑の手入れもきれいにされています。
- 冬が去り、目の前の山々が新緑に変わり始め、その緑の色が日に日に深くなり、濃くなりやがて万緑になります。私は特に雨上がりの夕方の散歩の時に目にする山々の瑞々しさ、空気まで爽やかで、集落内が一番美しく思える私の至福の時間です。時々車が通り抜けるだけで何も無い小さな集落ですが、日本の原風景とはこんな里のことを言うのかなと一人思っており、いつまでも残してほしい、守ってほしいと願います。(もちろん田植えの終わった田んぼの風景も含めての景色です)春から初夏にそして夏に向かう頃の山里の風景は大好きです。)
- ただ自然な景色があるだけです。
- 自然の景観が素晴らしい。特に人工的なものがないのが良い。さりげなく皆さんでいたわりあって生活しているのが心地良い。
- 田んぼの畔に彼岸花が咲いている。隣が近い。助け合いができる。
- 家々でそれぞれ花を育てている。県道側などへ草花等見に来られる人もおります。以前には鯉幟を上げたり案山子を並べたりしました。案山子は、遠方の方がよくみにこられ、毎日のように見に来られる時期もありました。

《住みやすい環境》

- 双海の中では少ない田園風景。双海を中心部まで近すぎず遠すぎずの距離、急傾斜過ぎない地形、公民館活動にも熱心でノリのよい人たち、美味しい野菜や米が採れ調理できる人もたくさんいる。公民館活動や地域活動も盛んでとても楽しい。
- 大きな災害がおきない。空気が良い。
- 裏山にパワーがあり、いつもパワーを頂いている。
- 集落の人はみんな穏やかで協力的。水も豊富で大変住みやすいと思う。ホタル祭りなどのイベントは良いと思いますが、地区外からどんどん人が来るような仕掛けは必要ないと思う。地元の高齢者が楽しみ、生きがいある生活ができればよいのではないかと思う。
- 災害も少なく住みやすいし、人の人情も厚いように思う。
- いろいろな野菜がたくさん採れる。柑橘、その他果樹が多く採れる。お米がおいしい。季節ごとに多くの行事がある。(コロナで中止をしている)
- 毎朝夕、愛犬を連れて散歩しています。
- 山、川、海をいつでも心にエネルギーをもらえます。すごく静かでのんびり過ごせます。とても平和な町。
- 周りが山で静かな所。
- 野菜が多く採れる。みかん等、果物が多く採れる。
- 高台にあるため景色が良い。浸水被害が少ない。

《人や人情》

- 私の集落には高齢者が多くいますが、みなさん元気で農作業に取り組んでいます。私自身将来、家族でもある果樹農家になろうと考えています。そんな中、集落内の優しい先輩や大先輩から多くのことを学び、問10で選択したことはもちろん守っていき、選択した以外のことも自慢ができるものにしていきたいです。
- 都会(移住者です)とは違い、地域住民同士が助け合って生活しています。私のようなよそ者にも温かく迎えてくれて生活できるのは翠校区の大きな魅力だと思います。そのもっとも基本的な活動が、公民館活動や地域活動、翠校PTA活動です。自然や食べ物は全国どこにもありますが、この「人と人との結びつき」は翠校区独特のもので、もっとこの独特の文化を行政として支援すべきだと思います。そのような意味において、このアンケート調査は大変有意義であると思います。
- 人や人情。食べ物などの交換や世間話など。同級生など幼なじみとの井戸端会議で和気あいあいと!!
- 集落には長い県道があり、その路側に桜、梅、アジサイ、桃、水仙などの花木が良く手入れされており、一年を通じて地元の人や通行する人を楽しませている。落石やごみを見つけたら住民で処理をしている。
- 人間関係が良好である。
- 近所の方とトラブルもなく、お付き合いが出来ている。主に母がお付き合いを大事に行っているおかげです。私が一人になると孤独になります。母と同じようにはできません。人付き合いが苦手なので静かに過ごしたいです。
- ホタル祭りには、多くの人々が参加している。自然がいっぱいである。情の深い人がいる。公民館活動が活発な方だ。
- 道とか出会ったときに声をかけてくれたり、こちらから声をかけたりと話しやすい。
- 集落の住民は優しく、互いに助け合って生活している。三島神社があり、心の支えの中心になっている。
- 隣近所で何かあるとすぐ相談したり、頼みごとをしたりし易いので助かっています。
- 隣近所の人と声をかけたり助け合ったりしている。公民館活動が活発である。

《公民館活動や地域活動》

- 私の集落では積極的に活動を行っており、近隣住民とも積極的に交流を行い親睦を深めている。
- もともと久保地区に住んでいた方と移住してきた方が協力して、公民館活動などを行っている。基本的に悪い人はいない。
- 誰とでも話ができて、公民館活動を通してまとまる機会がある。
- 助け合う精神が根付いている。公民館活動に各自が積極的に参加してくれる。
- 公民館活動での人と人とのふれあい。同じ年代で気が合う。
- 私の集落の公民館活動は、現時点では活発である。
- 公民館活動が活発で、集落の人全員の顔と名前を知っている。昔から馴染みの関係で問題のある家庭もなく住みやすい。自然がたくさんで、のんびりしている。
- コロナ前までは公民館活動が活発でしたが、ここ数年は何もなく以前の様な活動ができていない。地域での若い方とのギャップが生じているように思われます。

《地域イベントの開催》

- 5月末からホタルが飛び、6月第1土曜日には翠小学校を会場にホタル祭りが開催される。当日以外の日にも地域外からホタルを見に来る人が多い。
- 以前は何度か夏祭りを公民館でやっていましたが、一部の住民の方から苦情があり、それ以降開催されていません。なので、今現在誇れる物はあまりないと思います。
- 翠小学校の児童(校区外児童も含む)の積極的な活動やイベント(ホタル祭りなど)においても、元気なパワーを見せてくれる。美味しい野菜、果物など。また、海の魚など自然環境に恵まれているところ。
- 恒例になったホタル祭りは、唯一公民館活動で若いも若きも参加できており、交流の場ともなっている。市外からも多くの方が楽しみにしてくださっているのが感じられます。
- ホタル祭りや秋祭り(おなり)

《伝承文化や芸能・遺跡や旧跡・建造物》

- 7月第1日曜に稲儀祈(米の豊作を祈る)行事。数珠球を参加者が太鼓に合わせて、108回回す。その後飲食。9月第2土曜日に秋葉山祭(五穀豊穰祈願)。山頂本尊お参り後、子ども相撲・餅まきご飲食。
- 高見遺跡。
- 木造校舎の翠小。
- 翠小学校の行事に参加でき児童との交流もできる。菩提寺の周りの桜の季節も良い。歴史ある翠小学校の校区にあること。

【北海道科学大学専任講師のコメント】

地域課題でも日々の暮らしで生じる困りごと、どんな人とでも概ね同じような人間関係がないと解決には至りません。地域の皆さんの覚悟(未来への展望も含めて)がしっかりと共有出来ていることが今後は必要になると思います。

公共交通や水道などインフラなどの整備要望は、まさに自分ごととして、非常に具体的な考えを持ってしています。この要望をどう折り合いを付けるかは行政側の課題(宿題)なのだと思います。一方で、「人(行政)に頼らないとできないこと」と「自分たちでできること」をどの程度まで分けられているかは、正直見えないところだと思います。

釈迦に説法ですが「自分ごと」として捉えるには「自分でもできること」のマッチングが必要だと思っています。

合併後の不満もありましたが、これは合併市町村の弊害として全国的に見られる事象です。結果的にどこまで行政が方針を示せるかでしか手立てがないように思います。地域運営組織を積極的に導入するのか、中心地移住を含めたスモールシティを推進するのか、この指針を示すことが住民の不安の解消(諦めも含めて)になる案件だと思います。一方で、どんな地区にしたいのかという住民からの要望をとりまとめて情報共有することは、提案の歩み寄り(譲歩)を行う上では必要な手続きだとも考えます。

4 集落の活動について

【問 11】現在あなたが参加しているすべての活動についてお伺いします。お答えについては、回答票の該当する箇所に○を記入してください。

全体					
	活動内容	現在参加している	今まで参加したことがない	中心的に運営しているのは誰ですか	
				広報委員等の役員	役員以外の住民
1	常会など話合いの世話	86	43	87	3
2	広報紙の配布や回覧版の世話	74	40	74	17
3	集会所(公民館)の管理	77	39	54	31
4	消防・防災活動	28	62	33	23
5	高齢者世帯への声掛けや見守り	25	71	22	28
6	高齢者世帯のゴミ出しの世話	6	89	1	9
7	登下校時の子どもの見守り	26	72	6	22
8	地域のお祭りの世話	63	42	54	21
9	集落内でのお葬式、結婚式の手伝い	77	42	17	38
10	集落内の道路や水路の管理	68	52	33	36
11	集落内の公園等公共土地の管理	32	64	29	17
12	鳥獣害や病害虫への対応	20	74	18	16
13	伝統芸能の継承活動	7	77	5	9
14	公民館活動(スポーツ・敬老会など)	67	40	62	19
15	資源を活用した特産品開発や販売	4	85	4	3
16	その他	2			

防災に関することや高齢者や子どもといった生活弱者との関わりをもつ活動に参加されたことが無い方が多いのが気にかかる。「地域での支え合い」を行動に移せると良いのではないかと思う。

【問 12】 前の質問【問 11】で「現在、参加している」に○を記入された活動について、お聞きします。あなたは今後、その活動を継続していくことの可能性についてどう思いますか。回答票の該当する箇所に○を記入してください。

全体				
	活動内容	継続は可能	継続は不安	継続は困難
1	常会など話合いの世話	69	21	12
2	広報紙の配布や回覧版の世話	68	21	9
3	集会所(公民館)の管理	65	22	8
4	消防・防災活動	26	26	10
5	高齢者世帯への声掛けや見守り	28	26	8
6	高齢者世帯のゴミ出しの世話	15	25	8
7	登下校時の子どもの見守り	25	20	6
8	地域のお祭りの世話	46	28	14
9	集落内でのお葬式、結婚式の手伝い	56	24	11
10	集落内の道路や水路の管理	42	34	8
11	集落内の公園等公共土地の管理	24	24	12
12	鳥獣害や病害虫への対応	14	21	17
13	伝統芸能の継承活動	8	17	17
14	公民館活動(スポーツ・敬老会など)	44	30	13
15	資源を活用した特産品開発や販売	1	18	17
16	その他	1		

高齢化や人口減少が進展することへの不安が大きいのではないかと思います。

【問 13】 前の質問【問 12】で「継続は困難」に○を記入された活動についてお聞きします。
あなたは今後、その活動がどのようになっていけばよいと思いますか。回答票の該当する箇所に○を記入してください。

全体						
	活動内容	今後も残したい	どのように残したいですか		止めざる得ない	分からない
			規模を縮小して集落の人で	周辺の集落と共同で		
1	常会など話し合いの世話	24	14	8	2	10
2	広報紙の配布や回覧版の世話	23	11	8	2	8
3	集会所(公民館)の管理	26	11	9	4	6
4	消防・防災活動	17	7	9	2	11
5	高齢者世帯への声掛けや見守り	17	8	13	1	9
6	高齢者世帯のゴミ出しの世話	13	8	9	2	9
7	登下校時の子どもの見守り	8	4	8	3	10
8	地域のお祭りの世話	17	12	9	5	7
9	集落内でのお葬式、結婚式の手伝い	17	13	3	8	9
10	集落内の道路や水路の管理	16	8	5	10	10
11	集落内の公園等公共土地の管理	8	5	7	11	10
12	鳥獣害や病虫害への対応	8	2	10	5	18
13	伝統芸能の継承活動	8	3	8	6	18
14	公民館活動(スポーツ・敬老会など)	18	6	9	9	11
15	資源を活用した特産品開発や販売	2	4	5	2	17
16	その他					

集落内での課題解決への意識が強いが、他の集落との協同による解決にも意識が向いている。今後の組織運営や活動の維持継続に重要なポイントとなりうるのではないかと思う。

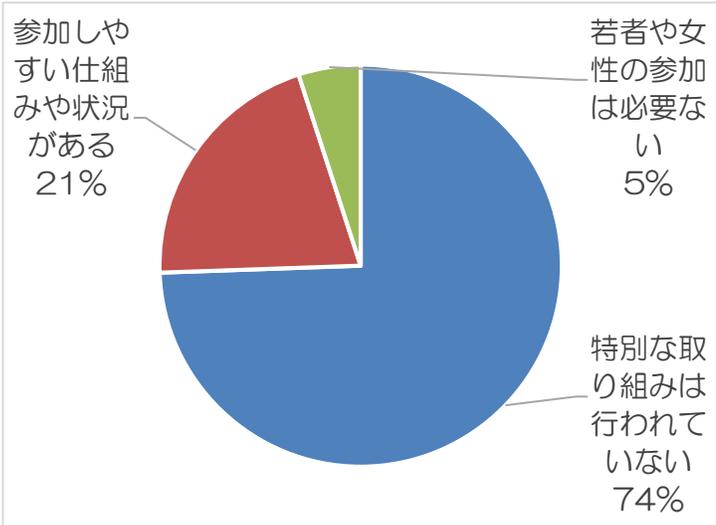
【問 14】 あなたの集落の話し合いや活動に、若者や女性の積極的な参加を促す取り組みをされていますか。もっとも近いと思う番号を1つ選んで記入してください。

- 1.参加しやすい仕組みや状況がある
- 2.若者や女性の参加は必要だが、特別な取り組みは行われていない
- 3.若者や女性の参加は必要ない

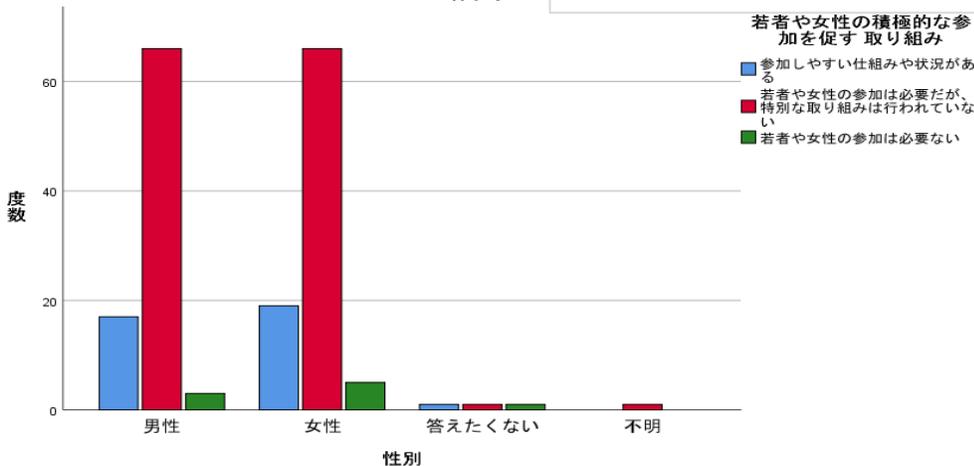
全体

番号	1	2	3
人数	37	134	9

地域の活性化のためには、女性や若者の参加の必要性について、十分な話し合いや具体的な取組が必要ではないかと思う。



棒グラフ



【北海道科学大学専任講師のコメント】

これは、非常に明確な結果が出たように見えます。ただし、この結果はネガティブな印象ではなく、単に意識化されてこなかっただけで、きっかけがなかっただけという意見も含まれていることも推測できます。一般的にいわれる田舎にはおしなべて家制度の名残が多く残る地域性があります。これを伝統文化の視点で捉えると、これまでこの土地を成立させてきた制度と言い換えることができるのではと思います。ただし、地域の衰退や人口減少といった社会（地域）課題を考えたとき、何らかの変化が起きる手立てを講じることも必要なことです。単にきっかけがなかったということであれば、これを機会にどのような仕組みがあるのか実際に知る機会を設けることは悪いことではないでしょう。

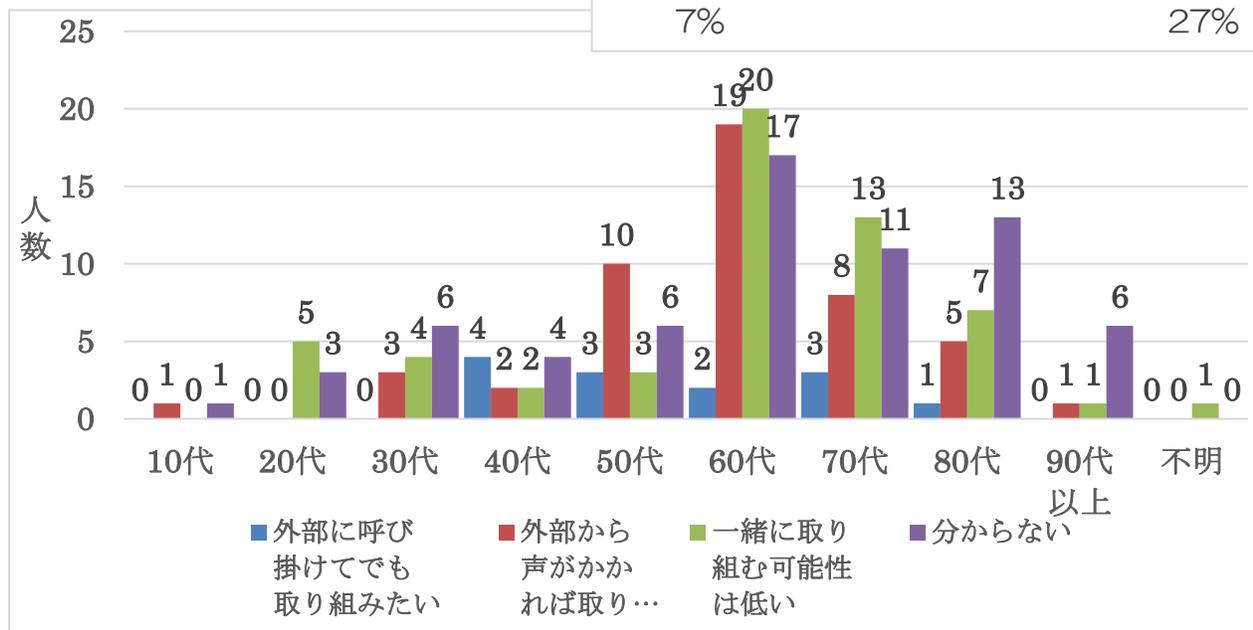
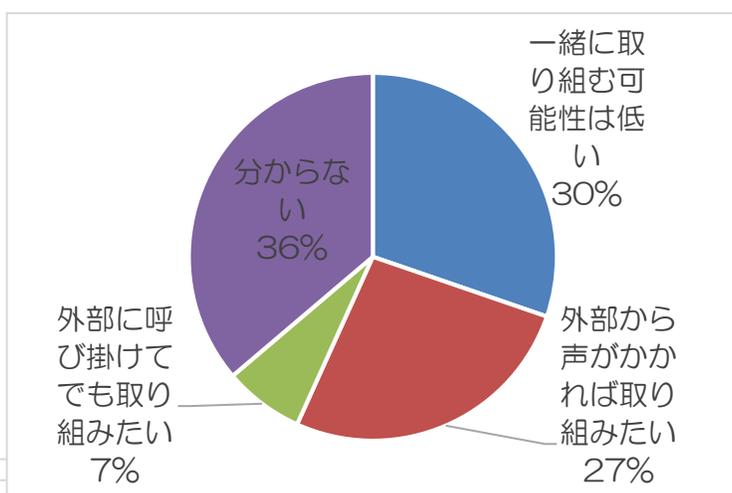
【問 15】 あなたの集落の活動を、外部の人材(学生やボランティアなど)と一緒に取り組むことについて、どのようなお考えですか。当てはまる番号を1つ選んで記入してください。

- 1.外部に呼び掛けてでも取り組みたい
- 2.外部から声がかかれば取り組みたい
- 3.一緒に取り組む可能性は低い
- 4.分からない

全体

番号	1	2	3	4
人数	13	49	56	67

積極的に外部人材との関わりを求める意識が少ない。外部人材導入の効果も検討する必要があると思う。



【北海道科学大学専任講師のコメント】

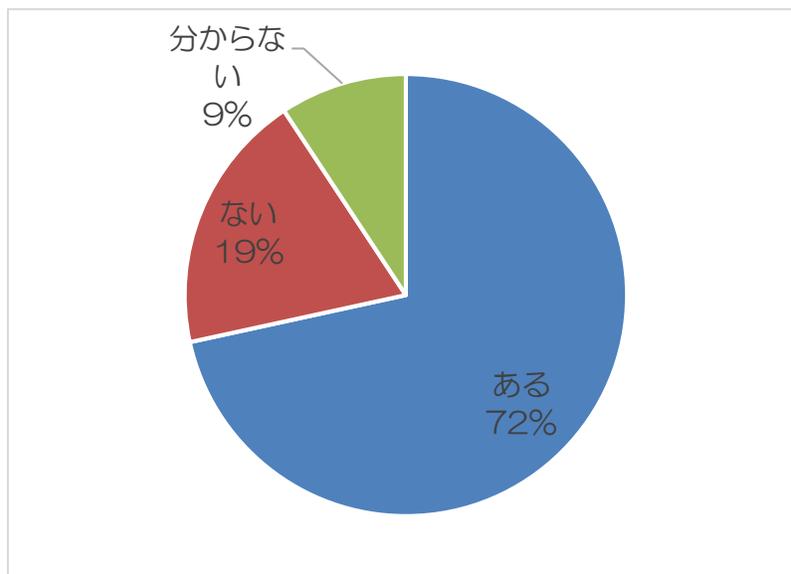
この設問も、前の質問の回答同様に知る機会がなかったことも一因であることが予想されます。見知らぬ人との交流を苦手とする方もいるでしょうが、「案ずるより産むが易し」という言葉があるように、実際に行ってみようと思っていたよりも難しいことではないことに気づけるのではないのでしょうか。ただし、一度に行うのではなく、少しずつできることを検討しながら実践していくことが大切です。その結果として、皆さんが住まう土地の魅力を伝える良い機会になるかもしれません。

【問 16】 あなたの集落において、もともと縁がなかった移住者を受け入れた実績はありますか。当てはまる番号を1つ選んで記入してください。

- 1.ある 2.無い 3.分からない

全体

番号	1	2	3
人数	131	35	17



【問 17】 あなたの集落に移住者を受け入れることについて、あなたはどのように思いますか。当てはまる番号を1つ選び、さらにその理由の番号を1つ選んで回答票に○を付けてください。

1.受け入れたい

- (理由) ① 世帯が増える
 ② 集落の担い手として期待している
 ③ 空き家などの有効活用につながる
 ④ その他()

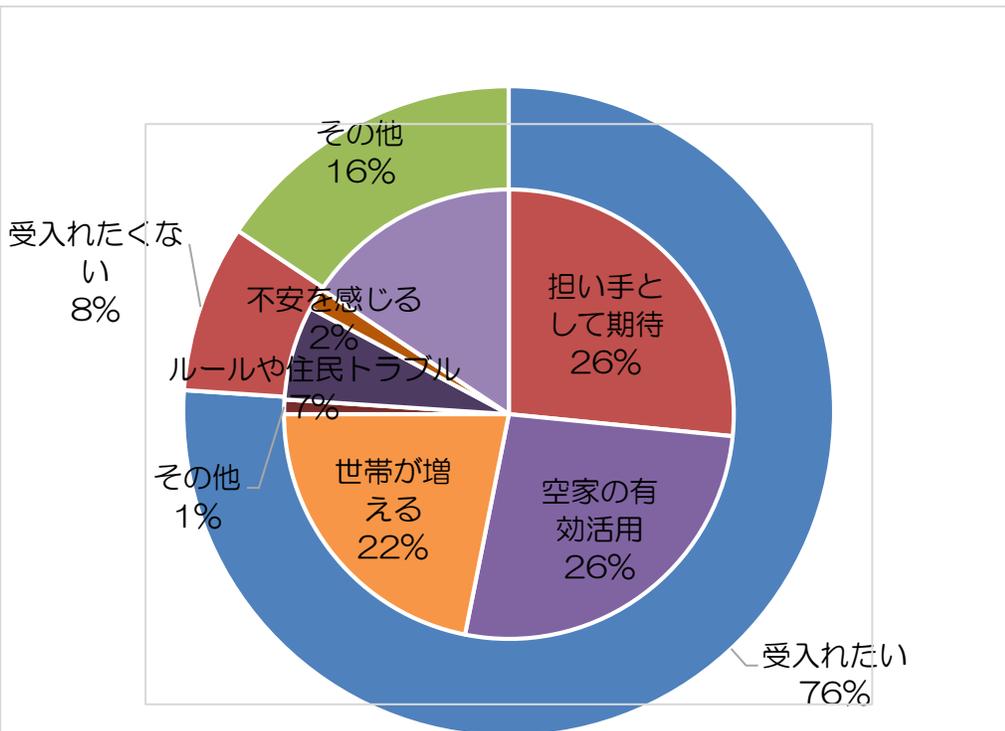
2.受け入れたくない

- (理由) ① ルールを守らなかったり、住民とトラブルをおこしたりしないか心配
 ② 見も知らずの住民がいることに不安を感じる
 ③ その他()

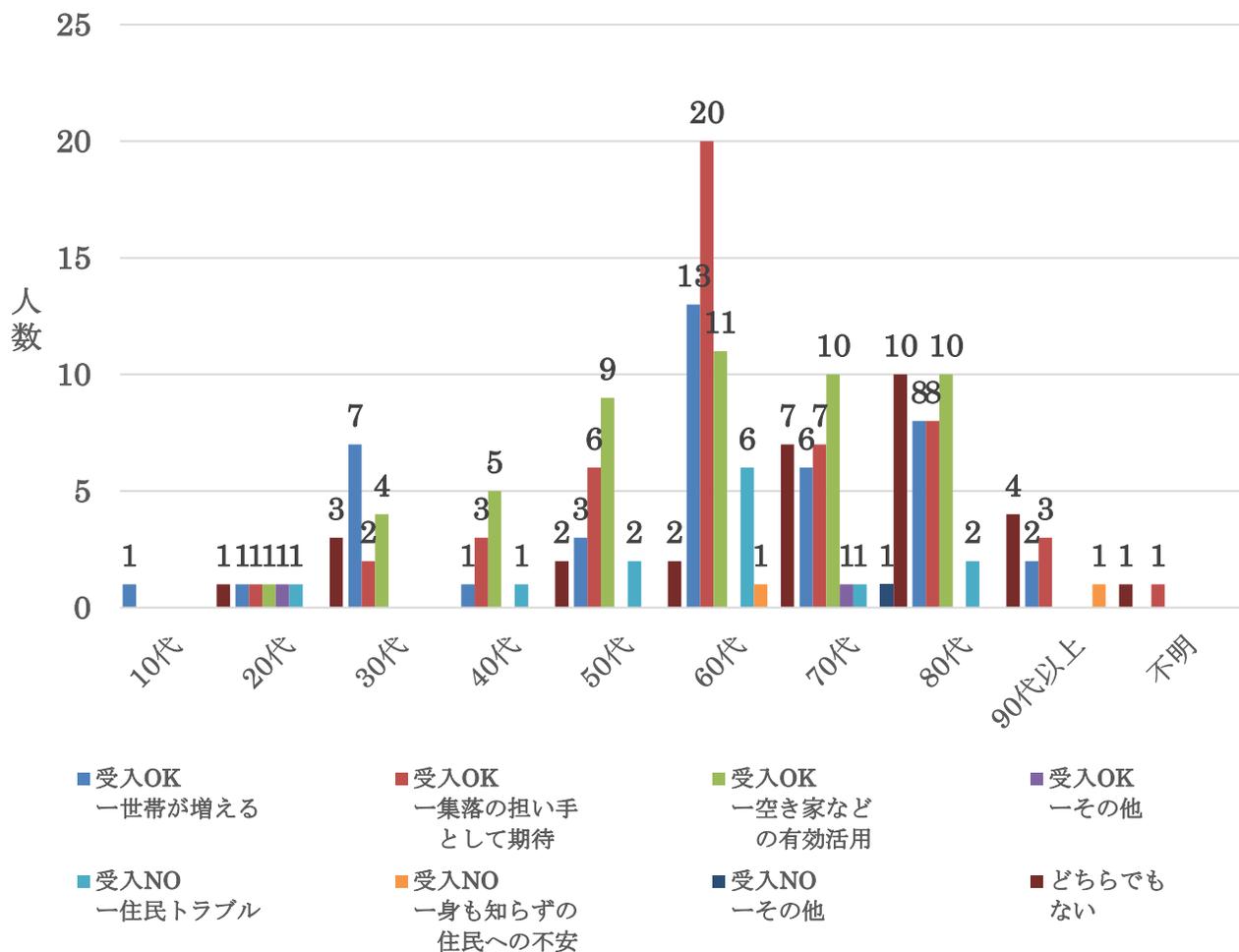
3.どちらでもない

全体

1-①	1-②	1-③	1-④	2-①	2-②	2-③	3
42	51	51	2	13	3	0	30



移住について肯定的にとらえている割合が多いが、否定的な意見も一定数ある。地域住民と移住者、双方の協調がポイントではないかと思う。



【北海道科学大学専任講師のコメント】

それぞれの理由はありますが、前向きな姿勢が見て取れます。当然受け入れたくないという方の理由ももっともなことで、この慎重な姿勢は大切な指標だと思います。少数ではありますがどうすれば不安をなくすことができるのかを考えることは、元々の住民の不安解消のみならず、移住を考えている方の不安を払拭することにつながり、双方ともに良い効果をもたらすと思います。別の回答にあった、集落の魅力としてあげられた「人情」を活かせることを期待します。

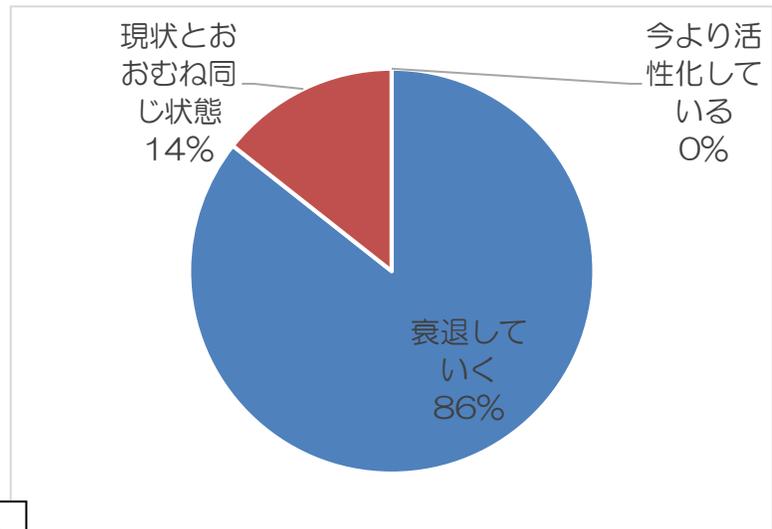
5 集落の今後について

【問 18】 今後(おおよそ 10 年後)、あなたの集落の様子はどのようになっていると思いますか。当てはまる番号を1つ選んで記入してください。

- 1.今より活性化していると思う
- 2.現状とおおむね同じ状態だと思う
- 3.衰退していくと思う

全体

番号	1	2	3
人数	0	27	161



地域課題の解決が不透明なため、今後への不安が大きいのではないかとと思う。

【北海道科学大学専任講師のコメント】

後ろ向きの意見のようには見えますが、現状を周囲の情報を踏まえながら客観的に捉えられている証左だと思います。

おっしゃるとおり、現状より発展する集落は人口減少著しい日本にあってほとんどないと言って良いと思います。その上で、現状の皆さんの暮らしを不便にしないか、譲れない点は何かを考える機会に繋げて行って欲しいと思います。

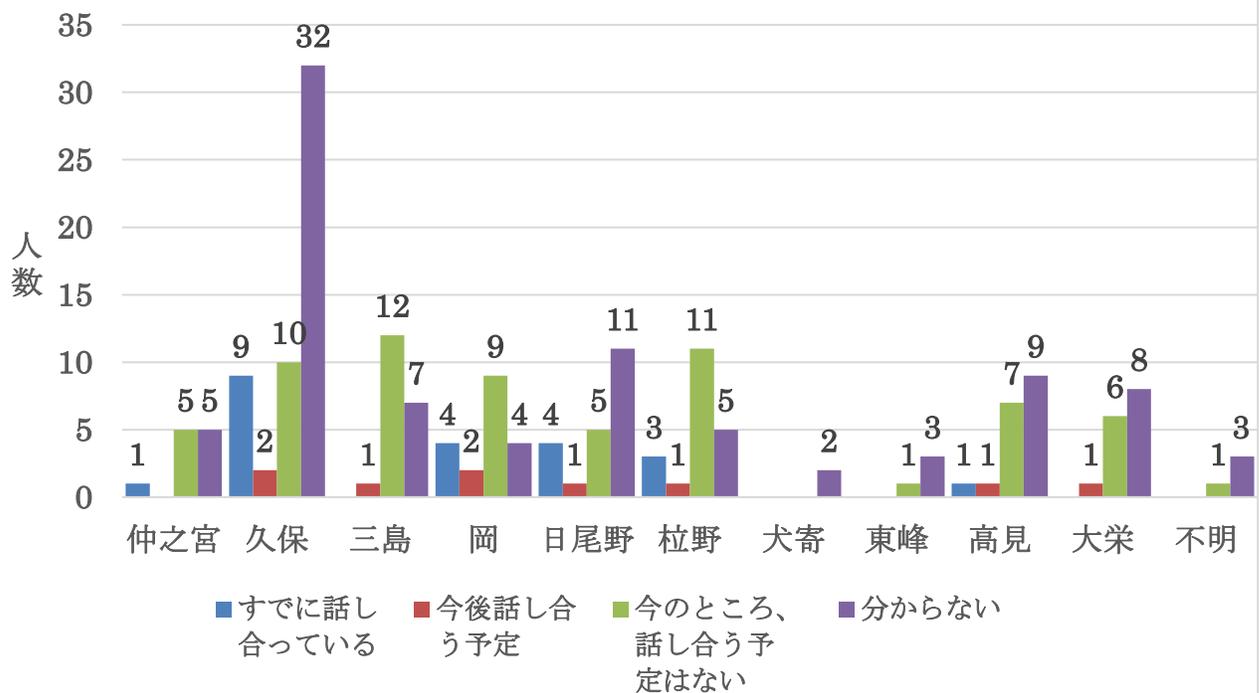
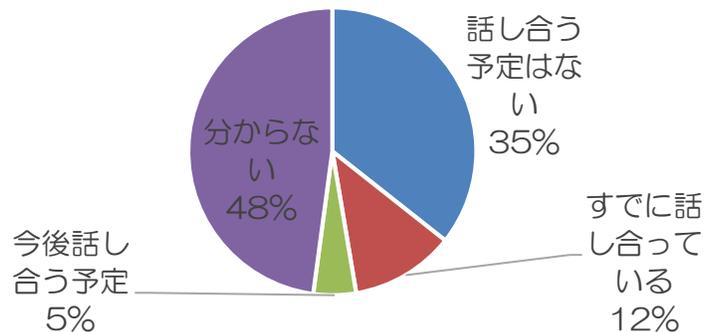
【問 19】 あなたの集落の将来について、集落内で話し合いをしていますか。当てはまる番号を1つ選んで記入してください。

- 1.すでに話し合っている
- 2.今後話し合う予定
- 3.今のところ、話し合う予定はない
- 4.分からない

全体

番号	1	2	3	4
人数	22	9	67	90

話し合う必要性を感じていないのか、集落の将来像が描けないのか。活性化のためには、将来のビジョン共有が必要と思う。



【北海道科学大学専任講師のコメント】

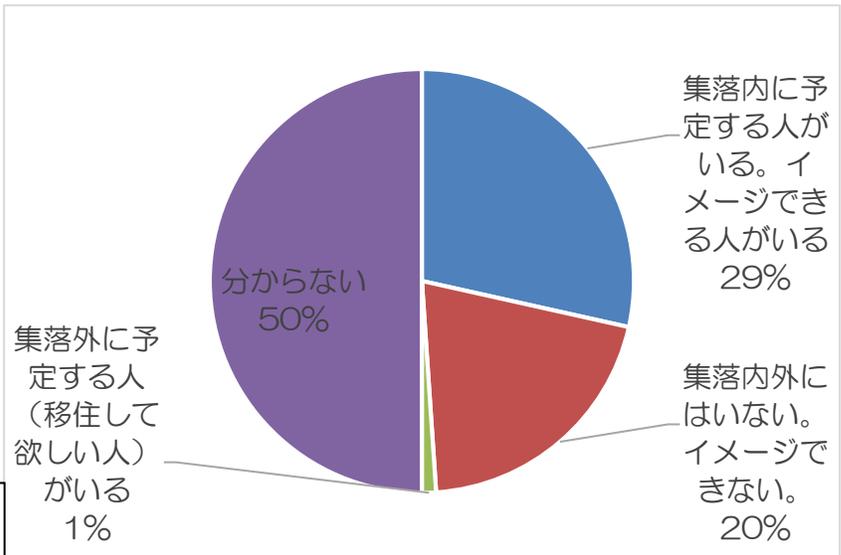
何事も、将来について考えることは大切なことです。その上ですでに話し合っていると回答された方が全体の1割いることが分かりました。これは同じ集落に住まう人の回答であれば、そのようなことが話し合われているかを、横のつながりあるいは行政のサポートを得ながら共有することが翠地区全体に活動を広げることにつながりますし、他集落の回答であれば、それぞれの話し合いを共有する上位組織体があるとさらに話し合いが具体化を帯びるような期待が持てます。

【問 20】 あなたの集落において、次のリーダー的な役割を担う人がいますか。当てはまる番号を1つ選んで記入してください。

1. 集落内に予定する人がいる。または、イメージできる人がいる
2. 集落外に予定する人(移住してほしい人)がいる
3. 集落内外にはいない。イメージできない
4. 分からない

全体

番号	1	2	3	4
人数	53	2	38	93



約7割が、次のリーダー的な役割を担う人を思い描けていない。少子・高齢化が大きな要因ではないか。現在、集落内でリーダー的役割を果たしている方が、自分の思いや考えを語ることで次につながるかもしれない。

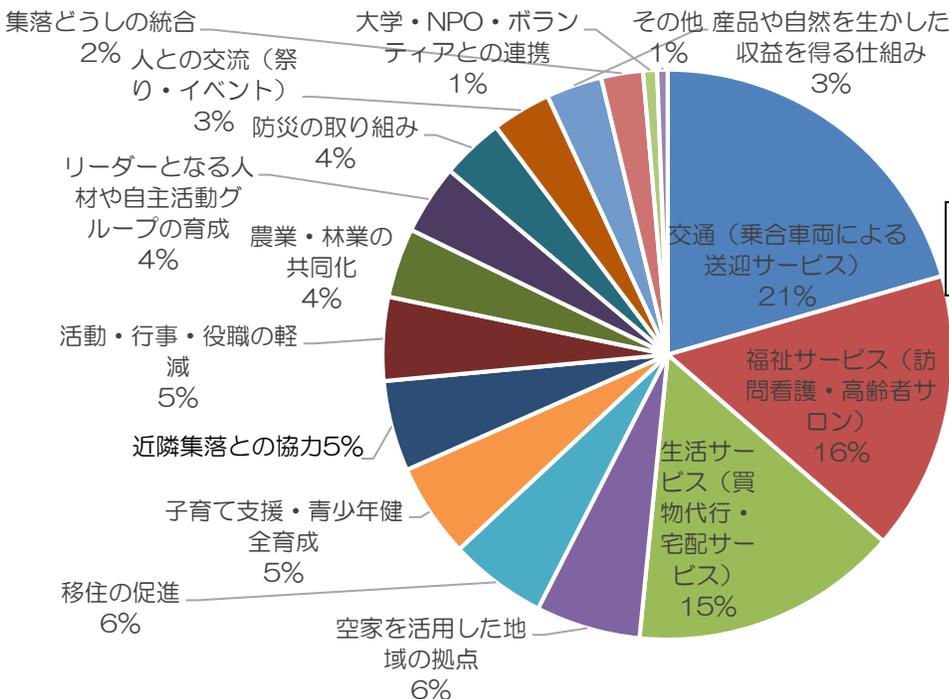
【問 21】 あなたの集落を活性化するためには、どのような取り組みが効果的だと思いますか。当てはまる番号を3つまで選んで記入してください。

1. 買い物代行や宅配弁当などの生活サービスの充実
2. 乗合車両による送迎サービスなどの交通の確保
3. 訪問看護や高齢者サロンなどの地域福祉サービスの充実
4. 防災についての取組
5. 子育て支援や青少年の健全育成に関する取組
6. 空き家などを地域の拠点として活用
7. 集落の産品や自然(景観)を生かして、集落が収益を得る仕組み
8. 祭りやイベントなどの人との交流
9. 大学、NPO、ボランティアとの連携
10. 移住の促進
11. 農業、林業の共同化
12. 近隣の集落との協力
13. 集落どうしの統合
14. 活動や行事、役職の軽減
15. リーダーとなる人材や自主活動グループの育成
16. その他()

全体

番号	1	2	3	4	5	6	7	8
人数	77	104	80	18	27	30	16	17

番号	9	10	11	12	13	14	15	16
人数	4	28	20	26	12	24	20	3



地域課題に密着したものが
多い。

【北海道科学大学専任講師のコメント】

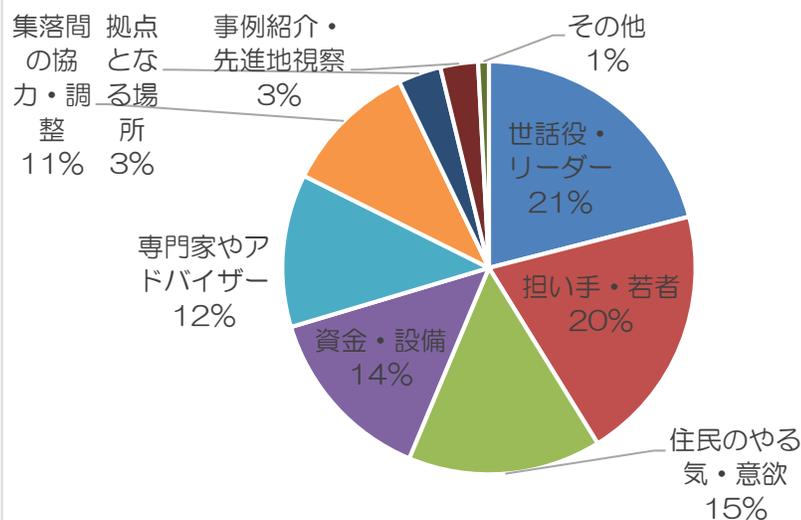
集落活性化に必要なこととして考えていることの上位は「送迎サービス」「地域福祉サービス」「買い物代行」で全体の半数となります。このことから、集落活性化を住みやすい土地と捉えている様子が見て取れます。各項目は将来を見据えて全て大切なことですが、その結果が未来の住民に対しても安心を与えるものかもしれません。一方で、今後国や自治体の力（人口や経済などを含む）が縮小していくことを踏まえて、今後は「自分たちでできることは何か」をこれを契機として、住民あるいは地区全体で考えていただければと思います。（前に触れた「自分ごと」と同義です）。

【問 22】 前の質問【問 21】でお答えいただいた集落活性化の取り組みを行うには、何が必要だと思いますか。当てはまる番号を3つまで選んで記入してください。

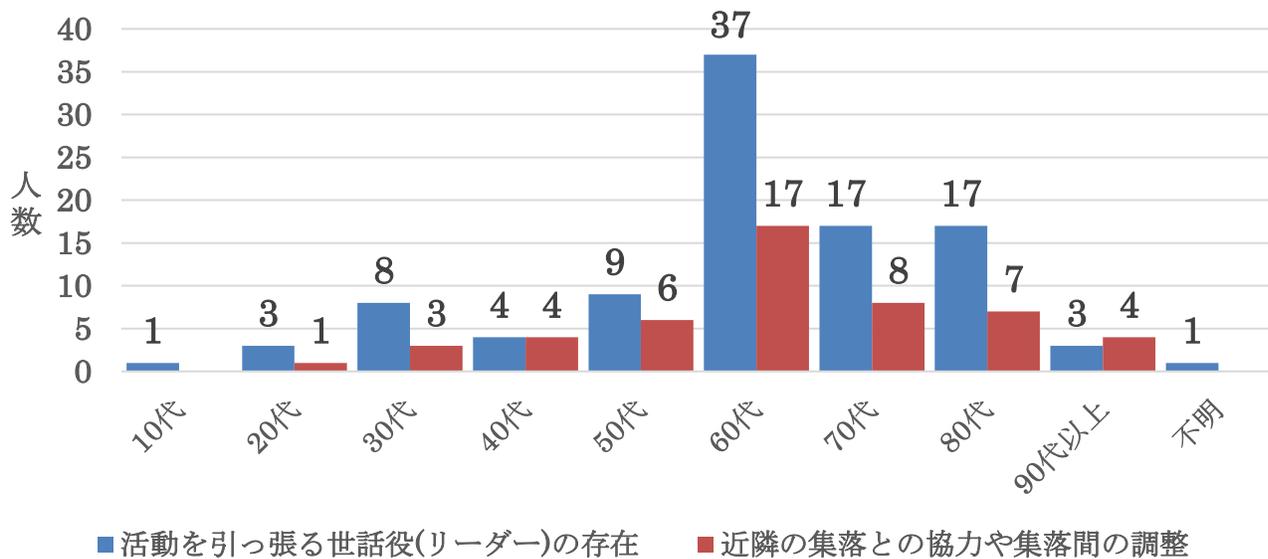
- 1.住民のやる気、意欲
- 2.活動の担い手となる人や若者
- 3.活動を引っ張る世話役(リーダー)の存在
- 4.活動にかかる資金や設備
- 5.活動の拠点となる場所
- 6.活動に必要な方法や知識を指導してくれる専門家やアドバイザー
- 7.先進的な活動事例の紹介や視察研修
- 8.近隣の集落との協力や集落間の調整
- 9.その他()

全体

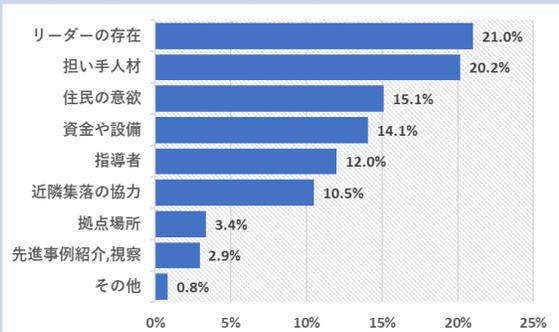
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
人数	72	96	100	67	16	57	14	50	4



人に係わる項目の割合が高い。



【北海道科学大学専任講師のコメント】



上記の質問を受けての回答結果です。それぞれ大切なこととして広く捉えている様子が見て取れました。先導するリーダーは大切な役割ですが、担い手となる人材については先に触れたように、地域のことを考え、行動するのは自分自身という「自分ごと」の姿勢です。この姿勢は「住民の意欲」が当然必要なことです。集落活性化という課題に対して、危機感をどれくらい持てるかということも過程の中で大切な機会だと思います。様々な情報交換のできる場面を行政のサポートを得ながら実施できると良いでしょう。

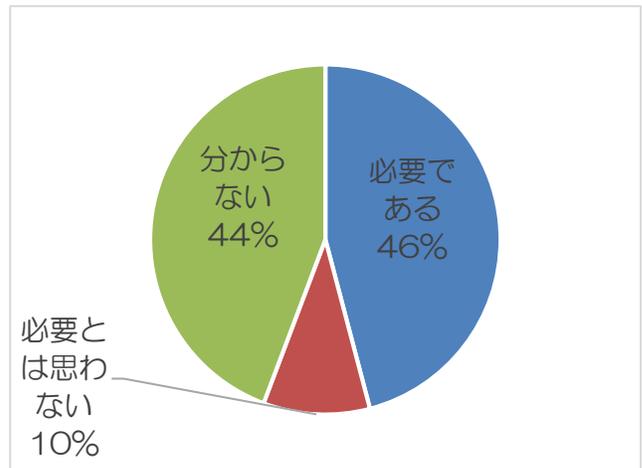
【問 23】 今後、集落の活動より広い範囲(例えば翠小学校区全体)で活動を行う新たな組織は、必要だと思いますか。当てはまる番号を1つ選んで記入してください。

- 1.必要である 2.必要とは思わない 3.分からない

全体

番号	1	2	3
人数	83	18	81

今後、住民自治組織を立ち上げるためには「必要である」の割合がもう少し高くなると現実味が出てくるのではないかと思う。そのためには、住民自治組織のメリットについて知る必要があると思う。



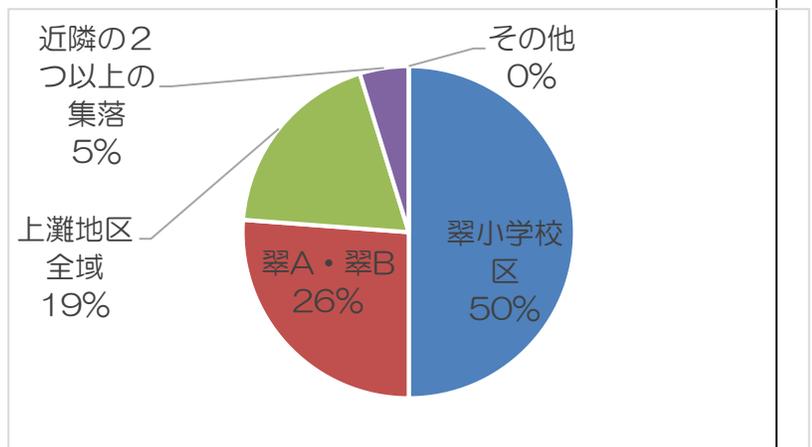
【問 23-1】 前の質問【問 23】で「1.必要である」と答えられた方にお伺いします。どの程度の範囲で組織をつくれればよいと思いますか。当てはまる番号を1つ選んで記入してください。

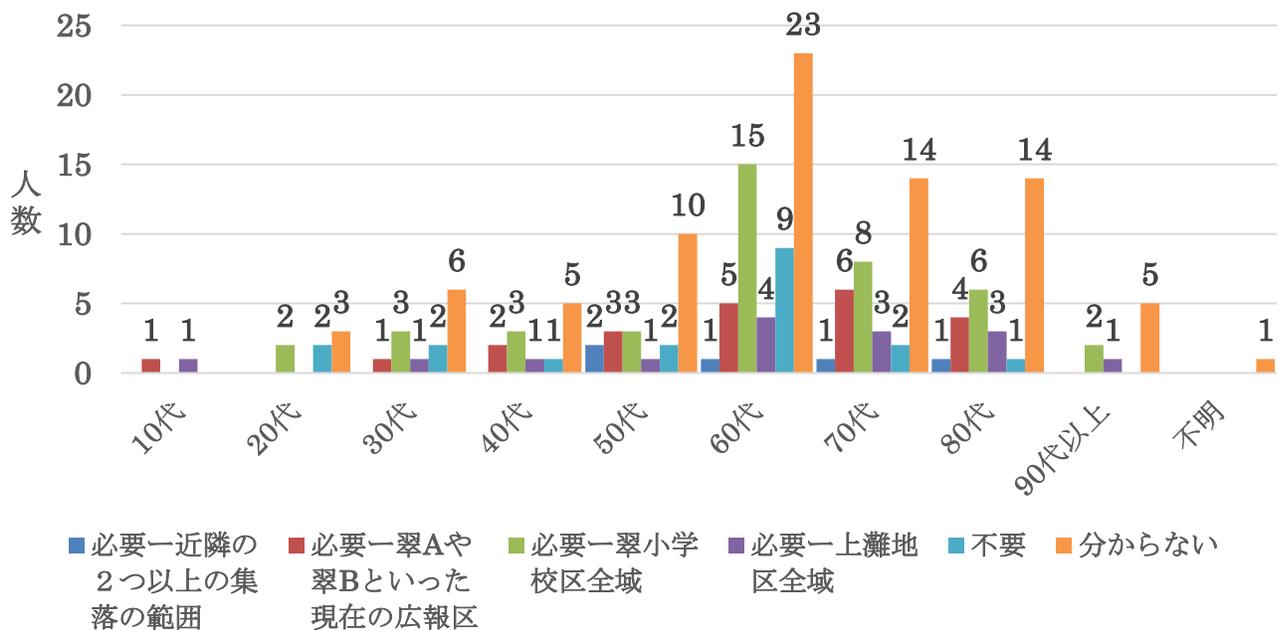
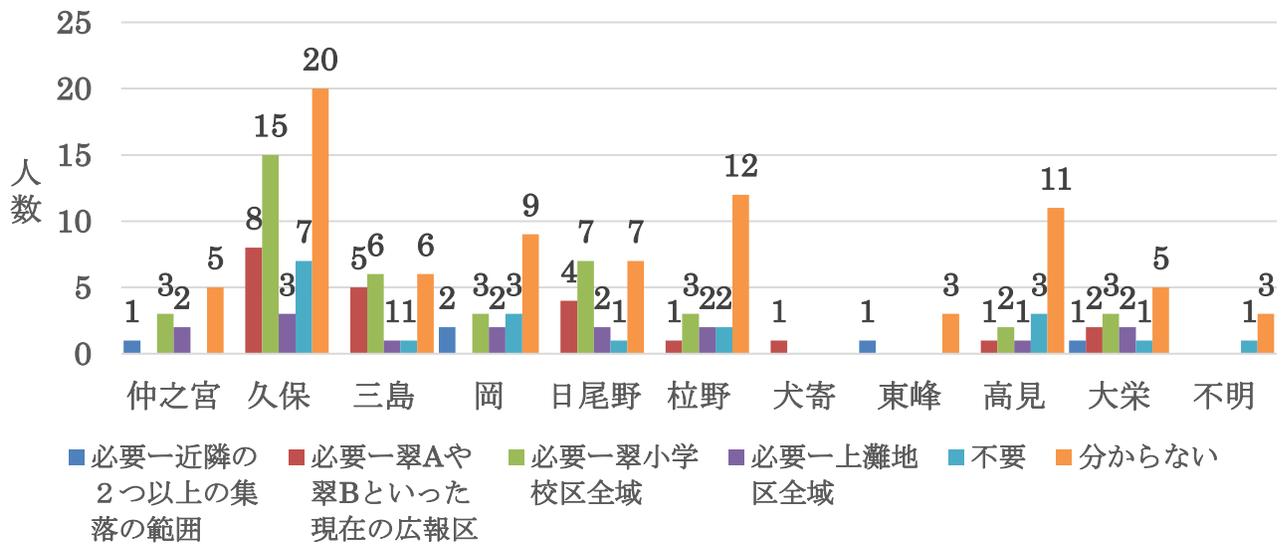
- 1.近隣の2つ以上の集落の範囲
 2.翠 A や翠 B といった現在の広報区
 3.翠小学校区全域
 4.上灘地区全域
 5.その他()

全体

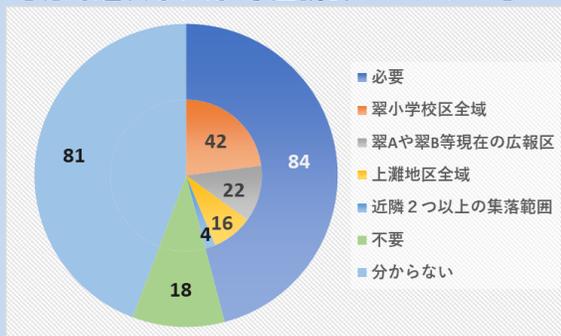
番号	1	2	3	4	5
人数	4	22	42	16	0

翠校区全域での組織形態希望が半数であり、今後組織化するのであればこの範囲が適切ではないかと思う。





【北海道科学大学専任講師のコメント】



ここでの設問は「今後、集落の活動より広い範囲（例えば翠小学校区全体）で活動を行う新たな組織は、必要だと思いますか。」というものでした。結果は必要と考える人が半数程度いることがわかりました。現在、地域のことを住民が主体的に活動する「地域運営組織」という組織が全国様々な地域で活動しています。行政サービスは今後人口減少に伴い期待しにくい将来を考えたときに、まさに「自分ごと」として地域を運営することが求められます。組織の広さはその土地の成り立ちとともに検討することも大切です。

【問 24】あなたが今後、集落内での地域活動を行っていくうえで、お困りの点や行政への要望等があれば、回答票の指定の枠内にご自由にお書きください。

《項目別での分類》

《行政への提案》

- 行政と各集落がこまめに情報の共有できる環境をもっと整えていったらよいと考えます。
- 翠地区の良さって何だと思えますか。自然、山?いいえそんなことではありません。移住者と地元の人がうまく融合し、共生し合っていることです。ましてや翠小学校はその象徴で校区外通学をしている児童の保護者は、様々なバックグラウンドがある方ばかりで、まさに「多様性」の宝庫です。この多様性をもっと活用する支援を行政にお願いしたいです。
まず、空き家対策を本格的に始めませんか。「翠地区に住んでみたいけど家がないから住めない」という人を私は少なくとも6人は知っています。もったいないです。行政が空き家を買取り、民間に売却して、民間が移住者に販売し、その利益を行政(伊予市)と民間で分ければよいだけです。この新しいモデルを伊予市翠地区から始めることが大切です。やがてそれは、伊予市全体に広がっていきます。誰でもかれでも移住者であれば良いという訳ではありません。ちゃんと翠地区のことを理解し、協力してくれる人が望ましいです。これは、面談(面接)でもすればよいことです。
要は、新しい人にどんどん翠地区に入ってもらおう。そうすると、人の流れができます。寮をつくって全国から児童を集めてもよいかもしれません。内子高校小田分校のようなスタイルですね。人の流れ、「人流」が大切です。「人流」が起きれば、そこに情報や金、物が流れます。つまり活性化されます。
私が翠地区でやってみたい活動とは、このような「人流」をつくるお手伝いをしたいです。その第一歩が空き家対策だと思えます。この校区に移住してきて本当に良かったと思えます。もっともっと活性化できるはずです。伊予市役所の皆様、一緒に取り組みましょう。
- まずは少人数の活動を活性化しないと、いきなり全体の活性化はできない。意欲のある人、すでに頑張っている活動を助けて、それらの人や団体をつなげていく必要がある。
- 従来の祭りや公民館行事は、参加数が減ってもなるべく継続してほしい。
- 何をどうやって良いかを指導してくださる方々がほしい。行政に携わっているお方で、役所とのパイプの太いお方が良い。
- ご高齢の方がとても多いので、その方たちが楽しめる活動がいいと思う。
- 今回の実態調査が非常に回答しづらかったのも、もし今後似たような調査をされるのであれば、改善を強く求めます。回答の集計の手間を減らすために設問と解答用紙を分けたのかもかもしれませんが、回答する側の手間が増えます。問の中には、「現在している」と「参加したことが無い」の2択ですが、「かつては参加していた」ケースもあり、回答に困った。任意の調査であれば、もう少し回答しやすい作りにした方が回収率も高くなるのではないかと思います。
- 公民館行事に参加するにも交通手段がない方が多いので、乗り合いバスがあればいいなと思う。小学校の参観なども以前に比べて地域の方の参加が減っているように思う。若い人が多い集落とそうでない集落とでは、活気が違う。役員選出なども地区割ではなく人数割りにしてはどうか。
- 行政と住民の話し合いの場をしっかりと作っていただきたい。話し合いを何度もして、現実的に活性化する方法を考えていく取組を考えてほしい。
- 何をやるにも興味が持てるものとか、楽しそうと思うものがなければやる気が起こりません。

老人が増えている中で(私も老人)、今の双海は店もなければ何もない中で、色々なイベント、講演、体操、スポーツなど、どんどん出掛けられ生きがいを持てるような双海にしてほしい。ついでに水道整備をお願いします。

- 私の住んでいる地区はすでに限界集落に入っていると思いますが、集落の皆さんがそのことをどのようにお考えなのか情報がありません。私は将来もし一人になった時、この地区で自立して暮らせるのかと考えると不安でなりません。活動が一人ではできないからです。行政と住民がともに考える、学習をする必要を思います。そして何より交通のことを何とかしてほしいです。
- 集会所等へ行政の職員さんが時々来られて、住民とのコミュニケーションを取っていただきたい。
- 老人でも出来る事は少しでも参加する。

《施設・設備等の整備要望》

- 現在進んでいると思いますが、日常生活において若者、高齢者関係なくインターネットは必要不可欠となっています。一日でも早く光ファイバーの整備をお願いします。
- 道にナンバーを外した車や冷蔵庫を置いてある。非常に不愉快。景観が悪くなる。なんとかしてほしい。
- 高齢者のアクセスの確保。オンライン(リモート)の活用など。
- 移住者の受け入れをするにも、市の上水道の整備をお願いしたい。
- 水道インフラが整備されていない。広報に「水道の問合せは水道課まで」とあるが、私の集落は対象外。私の集落も伊予市ですよ。道路整備をしているが、冬は凍って国道56号線に降りられない。また「今後も狭いままだ」との事。放任園の管理を自治体から指導していただきたい。公共交通機関の充実と道路の整備。空き家の処分。何よりも次世代が働ける場所の確保。
- 上水道の整備が不安です。現在谷川の水を上水に利用していますが、80歳以上の住民が増え、管理が大変です。ぜひ市の管理で上水道を整備していただけないでしょうか。お願い申し上げます。
- 飲料水や生活水の確保及び水源地施設等の維持を持続できるか不安。点検や保全整備、資金等に行政からの支援があれば高齢者等への負担も減るのではないだろうか。維持管理ができない休耕地や植林地等の除草、間伐作業等の支援を望む。
- 飲料水が少ないので何とかしてほしい。
- 集落に移住者を受け入れるにしても、山の水を飲んだのでは受け入れられない。市の上水道を通してほしい。
- ネット環境が悪い。光を使用できるようにしてほしい。上水道を整備してほしい。
- 飲料水の確保。水が少ないため。
- 上水道を設置してほしい。
- ガソリンスタンドがあればよい。

《高齢社会での生活環境整備への要望》

- 高齢化が進み、行事や水道管理が後15年すればできなくなる。心配である。安心して飲める水が必要である。運転ができなくなると通院や買い物ができなくなる。この問題の解消が一番ですかね。テレビで見たのだが、高齢者の見守りで玄関に黄色い旗を立てる(元気であれば)。近所の人でも確認ができる。早く気付くことによって異常事態に対応できる。

- 生活上の移動がしやすくなれば良いと思う。
- 移住を希望する人はいるのに受け皿(空き家など)がない。買い物をする場所がほとんどなく、移動手段がない人には不便。
- 高齢になった時や車の運転ができなくなった時の移動手段。ぜひ今から検討、整備していただきたいです。
- 田んぼや畑の管理ができなくなっている。
- 今は自分で運転ができるが、これから先ずんずんと年を取っていくと交通手段が心配。
- 山間部のため車の運転ができなくなった時、交通の不便さ。(買い物や病院へ通うことが不便)
- 車での移動が困難になった場合の移動手段。移動スーパーの充実。ポストの設置。収入を得るための職場の誘致。
- ゴミ出しが大変。どうしたらよいのか。今はまだできるけど、年を追うごとにできなくなる。)

《地域課題(高齢化・人口減少等)の悩み》

- 後に続く若い世代が少ないことが、悩みの種である。
- 高齢者が多く、50代の私たちが若手の人間であること。現状では、高齢者が多いため、活動への取り組みが今後できなくなるのは間違いないと考える。
- 住人の高齢化で活動が縮小。住人の高齢化で役員が固定化してきている。
- 集落内の人が減ってきているのが大きな課題である。それぞれの家の後継者が地域外に生活拠点を移し、現在住んでいる者も高齢化し活動したくても動けなくなっている。10年後、元気に活動できている人は何人いるのだろうか？
- 若者がいなく高齢者中心のため、十分活動ができない。
- 70歳を過ぎると若者との集まりなどには一歩気が引ける。高齢者だけではやっていけないので、若い人の力をお借りしたい。
- 高齢者世帯がほとんどであり、若年、成年、熟年層がいない。昔のようなぎやかさが失われ、地域のけん引者がほとんどいなくなったのが残念。また、病気がちの人がほとんど(医者通い)。地域の魅力が失われ、活気がなくなったのが非常に残念である。
- 地域の皆様も高齢者の方が多く、これからの地域活動においては現実を見てそれに似通った活動をしていくしかないと思っています。若い方が働ける環境があればもっともっと活性化するのではと思いますし、それなりのリスクも色々と出てくるのも必須かなと思います。
- 各種の長(役員)のなりて不足。
- 若い人が少ない。子どもが少ない。
- 集落が高齢世帯ばかりで何も活動などできなくなると思います。
- 住人の高齢化により、色々な行事がなくなる。コロナの影響がそれをまた後押しして、何も行事がなくなってさみしいことです。住民の中には何も無い方がいいとの考えの方も多いです。
- 災害時に避難する所が無い。地域事務所は遠すぎる。場所的に良いとは思わない。
- 高齢者世帯が多く、活動は難しいと思います。
- 年をとっていくと参加ができなくなると思います。
- 全てに不便です。

《その他の意見》

- 地域おこし協力隊の意義や効果が分からない。
- 双海、中山、伊予市が合併してからだんだんと地方(双海、中山)が見放され、伊予市内中心の

行政になってきた感があります。

○ほたる祭りでのステージイベントで、品位を疑うようなものがありました。開催していただくのはありがたいし、参加したいと思いますが、加減を間違わないでほしいと思います。

【問 25】 今後、あなたが地域の方と協力して、翠地区でやってみたい取組や活動があれば、回答票の指定の枠の中にご自由にお書きください。

《翠小学校の教育活動等を活用した取組について》

- 子どもの同級生が今のままだと翠小学校入学時にいないと考えられるので、同級生が入学してくれるような取組に興味があります。
- 翠小の児童のための寮をつくって全国から児童を集めてもよいかもしれません。内子高校小田分校のようなスタイルですね。人の流れ、「人流」が大切です。「人流」が起きれば、そこに情報や金、物が流れます。つまり活性化されます。私が翠地区でやってみたい活動とは、このような「人流」をつくるお手伝いをしたいです。その第一歩が空き家対策だと思います。この校区に移住してきて本当に良かったと思います。もっともっと活性化できるはずです。伊予市役所の皆様、一緒に取り組みましょう。
- 翠小学校と一緒にいう行事やイベントなど。現役世代以外の方が、学校を身近に感じられるような機会を増やしたい。
- 翠小学校を中心とした活動。コミュニティスクールの枠組みの中で、翠地区全体が同じ目標をもった活動ができればと思う。
- 昔の様に子どもたちの声や隣近所との声掛け、笑い声、お祭りや運動会ができるようになるといいですね。
- 翠小学校開校150周年に合わせて、運動会で大人のソーランをやりたい。ホテル祭りのような大きなイベントではなく、毎年お盆に翠小で同窓会をやりたい。

《地域イベントや行事の取組について》

- 現在進行形のホテル祭りは、できる限り継続していきたい。佐礼谷のような翠地区、翠小学校合同の運動会などできたらよいと思う。
- 地区外の人が集まることができるイベント。地区外の人が集まる(あるいは宿泊する)ことができる環境整備。地域の魅力を発信すること。
- グランドゴルフ等の年者いても出来る軽スポーツなどやってみたい。また、地域内に手軽に楽しめる場所がほしい。
- 夏祭りをしたい。
- まずは少しずつ、公民館祭りなど以前のイベントに復帰していければいいと思います。
- 朝市、スポーツイベント(チャンバラ、雪合戦、玉は玉入れよの玉)

《環境整備や防災・減災の取組について》

- 防災、減災対策(特に南海トラフ地震対策)
- 翠地区内の田畑が荒れ地化していたり、山の杉林が荒れたままになったりしている様子を見る時、何とかならないのだろうかと思ってしまう。なお、翠小学校周辺は、中央構造線の真上にあり、地質的にも価値が高いと思うが、近年詳しい研究がなされていないのではないか。))
- 防災についての勉強会をしてみたいです。大きな地震が起きた時、土砂災害警戒区域がたくさんあるため(私の居住地区)。避難所までの道も危険。家も危険なので、どのように逃げたら

よいか全くわかりません。土砂災害時の避難所も遠くにしかない(ハザードマップ参照)ので、どこなら安全なのでしょう。

○川などの雑木の清掃。自然をきれいにし、住みやすくしてもらうよう、活動に参加すること。

○川に生えているヨシの掃除。

《住民の協力体制強化や協議の場の設定、リーダー育成、移住促進への取組について》

○非常に難しい問題である。何をしても出席する者、しない者、酒を飲んでも人の悪口ばかり。噂話。今後は20代30代の若い人たちの意見をもっと聞くことかな？

○活動を引っ張るリーダー養成。住民のやる気、意欲がないと駄目だと思います。

○外部より移住しやすいような受け皿的制度を多く作ると良い。

○地域の方は高齢のため中々難しいと思う。今あるものを利用して何かをしていくこといいと思うが、新たに何かを生み出して維持していくのは、地域の人にとって負担になるのではないかと思う。現実的に若者がいないので将来のことは考えていかないといけなと思う。

○双海に嫁いで約30年ですが、この翠地区に来て本当に良かったと思いました。これからも協力して、また若い人たちにも魅力ある(住みたいなあ)と思ってもらえるように頑張りたいです。

○私は今年88歳になりました。色々思うことはあっても実行力がありません。実際に動ける若い方々と話し合いがしたいと思います。

《地域活性化方策や地域課題解決への取組について》

○行政に対する要望で記載したことに対する前向きな話し合い。

○高齢者で参加できない。

○宿泊型農業体験村(アグリヴィレッジ) サマースクール(都市圏の小学生対象)ワーケーション施設をつくって、在宅ワーカーを誘致する。

○空き家を利用したサロンなど。自由に集える場所を作りたい。

○翠地区での交流の場(学習の場)を作してほしい。特に、女性中心に集まり、どうすれば今の場所ですら楽しく心豊かに暮らし続けられるか、みんなで考える会を。あれば参加します。どうしても女性が残されるので。男性目線ではなく考えてみたい。

【北海道科学大学専任講師のコメント】

最後に、外の人間として、この土地の地形や環境はうかがい知れません。そんな目線からどのような地域なのかを知ることができるものがあればいいなと思いました。これが例えば住民がプライドを持てる点(ホテルなどの自然や史跡、公民館活動)を地図にプロットするなどの活動は他地域に向けた魅力発信にもつながると思いました。またこの活動が更なる愛着とともに、地域としての一体感を醸成する活動となり、その先の地域課題解決の住民一体の取り組みのきっかけになるのではと思いました。少なくともハザードマップとの連携は必須でしょう。

【問 26】最後の質問になります。

ズバリお伺いいたします。あなたが翠地区に住んで良かった(幸せ・幸福)と思う度合いを、回答票にある点数に○を付けてください。

性別			年代			地域		
	人数	平均		人数	平均		人数	平均
男	90	67.00	10代	2	80.00	仲之宮	11	63.18
女	99	58.64	20代	8	57.50	久保	54	66.30
不明	4	37.50	30代	13	61.54	三島	20	61.00
合計	193	62.10	40代	12	70.83	岡	20	53.00
			50代	23	62.83	日尾野	21	60.95
			60代	58	62.41	粒野	19	65.26
			70代	37	58.38	犬寄	4	50.00
			80代	32	63.75	東峰	4	50.00
			90代以上	7	60.00	高見	19	65.26
			不明	1	30.00	大栄	17	63.53
			合計	193	62.10	不明	4	47.50
						合計	193	62.10

■小学生・中学生の翠地区に関する意見

《小学生 回答一覧》

- 今のままでホテルが飛んでいてほしい。おうちの周りにビルが建ってほしい。翠小学校の周りに、大きい蝶々が来てほしい。
- 緑がいっぱいで、虫や動物が住みやすくなってほしい。田んぼがいっぱいあるといい。花がいっぱいあるといい。川が汚くならないようにしたいし、それでホテルも守れる。
- とても面白くなってほしい。早く、給食がみんなで食べられるようになってほしい。みんなでいろんな活動をしたい。新しくお店ができること。翠小学校にたくさんの方が来てもらいたい。
- ゴミを捨てないでほしいです。よく見ると思ったよりゴミがあるからです。
- スーパーかコンビニがほしい。買い物ができる場所がほしい。
- 歩いて行ける所にコンビニエンスストアなどの買い物ができる所を作ってほしい。いつも地域の人たちが笑顔で、笑い合いながら、いつも楽しい日々が過ごせるような町。
- コンビニやスーパー、すぐに行ける薬局がほしい。
- もう少し便利になってほしい。コンビニやスーパーがほしい。

- お店を作ってほしい。
- 翠小学校がにぎやかになるくらい、小学生がいてほしいです。翠小学校の周りがずっと自然のままで、たくさんホタルもきれいに飛んでほしいです。
- 小学生は仲良くしてほしい。銀モクセイの木も大きくなってほしい。翠小学校をみんなに見てもらい、「きれいだな」と言ってほしい。翠小学校の周りは、自然いっぱいいてほしい。ほたる祭りにみんなが来てほしい。
- 私が大人になっても翠小学校があってほしいです。ほたる祭りにホタルがいっぱいいてほしいです。ほたる祭りに人がいっぱい来てほしいです。
- たくさん緑が増えてほしいです。お米ができてほしいです。畑が広がってほしいです。山がきれいになってほしいです。みかん畑が増えてほしいです。
- 緑に囲まれた景色のいい学校にしたい。静かな山の中の学校にしたい。家の周りを発展させてほしい。畑を多くしてほしい。鳥の声が飛び交う学校にしてほしい。
- 家の周りには捨ててはいけないうつケースが捨てられていたり、扇風機も捨てられていたりしていたので、それをやめたらいいと思う。またそのゴミは、一か月くらいあるのでそこも直してほしい。
- 石やりを作る場所があるといいです。みんなが知らない植物を知ってもらう場所があるといい。
- 翠小学校が有名になってほしい。自然がもっと広がってほしい。ホタルの量を増やしたい。ゴミを捨てないでほしい。
- 自然をこれからも大切にしていってほしい。ホタルをもっとPRしたい。

《中学生 回答一覧》

- 満足度 90点
 いろんな国籍の人や年齢の人、考え方の人がいて、日本人であっても、そうでなくても考え方が他の人と違っていても、すべての人が尊重される地域。全ての人種、性別、国籍、年齢の人が大切にされる地区。また、山や川などがあり、自然豊かな緑の特色はこれからも残してほしい。つまり、どんな人でも住みやすい、ダイバーシティの自然豊かな多文化共生社会になってほしい。
- 満足度 100点
 とてもきれいでゴミがない美しい地区になってほしい。挨拶がいっぱいで、笑顔があふれるようになってほしい。
- 満足度 80点
 今よりももっともっと活気あふれる地域に。観光客が双海に来た時に観光地として訪れもらえる地域に。
- 満足度 90点
 もっと子どもが増えてほしい。
- 満足度 90点
 これまでと同じように、人が優しくて自然豊かなままでいてほしい。

【北海道科学大学専任講師のコメント】

まとめ（今後の住民の皆様への期待）

今回の調査から一部を抜粋して集計結果をまとめ、その所感を述べてきました。冒頭でも記したとおり、この調査を通じて、その土地に愛着を持っている方が多い地域であることが分かりました。それは大なり小なり住民それぞれに魅力を感じているからだと思います。

それぞれの魅力は、是非未来に繋げていきたいと思うのが地域住民の共通の心情ではないでしょうか。もちろん、皆さんが調査でも回答されたように今後の地域活性化には課題が多くありますが、全国の地域がすべて衰退の一途をたどったというわけでもありません。

地域性などは当然考慮する必要はありますが共通しているのは、住民同士の「危機感の共有」です。愛着を持ち、このままでは自分たちの地域が消滅してしまうという危機感を共有した結果が、先に述べた「地域力」につながっていくと思います。

また、その土地の経験が長ければ長いほど良いものが見えなくなったりします。その時は地域外の方の声を聞くことであったり、あるいは地域の子どもの意見を聞くことであったりは、自分ごととして地域の課題に対する皆さんの視野や思いを広げてくれます。

この調査は、普段皆さんが漠然と思っていた不安や悩みを共有するよい「きっかけ」になったと思います。これを「きっかけ」にして、皆さんと未来の住民（現在の子供達や新たに移り住む方々）にとって住みやすいまちづくりを実現する「きっかけ」にしてください。全てが皆さんの思いを実現するための「きっかけ」になることを切に願っています。

調査・分析報告：北海道科学大学 専任講師 郡谷寿英

【調査結果分析の協力者 略歴】

氏名 郡谷(こおりや) 寿英(ひさひで)

出身 文教大学大学院人間科学研究科生涯学習学専攻終了(生涯学習学修士)

現職 北海道科学大学 全学共通教育部 専任講師

専門 社会心理学・生涯学習論

略歴

2007年4月文教大学付属教育研究所 客員研究員を振り出しに、(一財)日本視聴覚教育協会主務、東京都台東区社会教育委員、国立教育政策研究所社会教育実践センター社会教育調査専門職を歴任し、現在は北海道科学大学 専任講師、北海道地学協働活動推進会議委員、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター「社会教育施設におけるICT活用と今後の研修等の在り方に関する調査研究」調査研究委員会委員を務めている。

この間、主な研究実績として、文部科学省の社会教育活動の実態に関する基本調査事業において「地域創生の拠点としての公民館に関する調査研究報告書」、日本建築学計画系論文集では「地域運営組織における活動拠点としての社会教育施設の運営及び活用実態」等を関係委員と協力してまとめられている。



